

指導教員 : 小出義夫

審査教員 : 高野加代子

カード社会における大学生のカード事情

0 2 4 0 5 7

中小路 恵

平成 1 8 年 1 月 1 0 日

論文要旨

現在、「カード社会」と言われるほど、カードの種類はたくさんあり、用途に応じて様々なカードが出回っている。現金代わりになるだけでなく、割引や特典、保険制度など、消費者のニーズに合わせたいろいろなサービスが付属しており、計画的に利用することで生活がとても便利になる。そんな中、大学生は、クレジットカードをどのように利用しているのか、またどのような意見を持っているのか、クレジットカードがどのような役割を果たしているのか、ということへの興味から、カード社会に生きる大学生の実態を調べる。

まず、第1章では、本論文の研究を進めるにあたり、クレジットカードとは一体どんなものなのか、どんな歴史があり、どのように発展してきたのか、その一般知識を調べる。クレジットカードの日本の歴史はわずか45年ではあるけれど、その間にさまざまな種類のカードが誕生し、また、国際カードの提携や合併を繰り返し、大きく成長してきた。現在、国民1人あたり約2枚のカードを所有するほどクレジットカードは身近なものになった。そこで、第2章では、県大生に焦点を当て、大学生のカード事情を調べるためのアンケート調査の結果を述べる。また、同じアンケートを社会人にも実施し、大学生と社会人のクレジットカードに対する意識の違いを見ていくことにする。そして、第3章ではそのアンケート調査の結果を分析する。県大生のクレジットカード所有の割合はとても低く、クレジットカードの利用頻度、利用額ともに社会人と比較するとその程度は低かった。さらに、便利さの度合いも異なり、県大生においては、クレジットカードというものが生活上大きな意味を果たすということはありませんでした。それでは、なぜそのような結果となったのか、第4章では、金銭感覚と生活実態の2つの視点から県大生のカード事情を考察することにする。金銭感覚も生活スタイルも限られた収入で暮らす学生にとってはごく当たり前の結果であった。社会人との大きな違いは、生活スタイルによる環境の違いではなく、クレジットカードに対する考え方の違いからくるものであることがわかった。そして最後に、第5章では、本論文の研究の結果を述べる。

目次

はじめに	1
第1章 クレジットカードの予備知識	
第1節 クレジットとは	2
第2節 クレジットカードの歴史	3
第3節 成長するクレジット産業	6
第4節 クレジットカードの種類と特徴	8
第2章 カード事情の実態	
第1節 アンケート調査の概要	9
第2節 アンケート結果	10
第3章 結果分析	
第1節 クレジットカード所持の割合	19
第2節 クレジットカードの利用頻度とその利用額	20
第3節 クレジットカードを作ったきっかけ	23
第4節 クレジットカードの利用方法	24
第5節 クレジットカードの利用理由	25
第6節 便利度の割合	26
第7節 利用頻度と枚数、便利さの関係	27
第8節 クレジットカードを持っていない人の回答結果	31
第4章 県大生の金銭感覚と生活の実態	
第1節 県大生とOL女性の金銭感覚	34
第2節 県大生の生活実態	38
第5章 まとめ	47

謝辞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 49

参考文献・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50

付録

1. クレジットカードの関するアンケート調査用紙・・・・・・・・・・ 52

2. 金銭感覚に関するアンケート調査用紙・・・・・・・・・・・・・・ 57

はじめに

本論文の作成にあたりクレジットカードに着目したのは、最近、CM や店頭で呼びかけている「カード入会の申し込み」を見かけることが多くなり、その中でも様々な種類のクレジットカードがあることを知った。クレジットカード産業が日本で開始されて、約 45 年。それ以降、日本は、「現金社会」から「カード社会」へと変化を遂げ、多種多様なカードが浸透し始めた。現在、消費者のニーズに合わせ、いろいろな付加価値サービスの付いたカードが多く出回り、私たちの生活に大きな影響を与えているといっても過言ではない。そこで、本論文では、大学生のクレジットカード事情というテーマで、その代表として県大生に焦点を当て、カード社会で生きる大学生の実態を調べることにする。県大生のカード利用に対する目的は何か、どのような種類のカードを使い、どれくらいの頻度でカードを利用しているのか、そして、生活の中でどれほどの役割を果たしているのか、といったことに興味を持ち、研究を進める。また、その比較対象として、社会人にも同じアンケートを実施し、大学生と社会人のカード事情の違いも見てみることにする。

まず、第 1 章では、本論文の研究を進めるにあたって、よりわかりやすくするためのクレジットカードに対する一般知識を述べる。クレジットとはどんなものか、また、日本におけるクレジットカードの歴史、そして、クレジット産業の発展を調べる。次に、第 2 章では、県大生とその比較対象である社会人のカード事情を調査するために実施したアンケートの調査結果を述べる。アンケート用紙を用いて、県大生および社会人にアンケートに協力してもらい、クレジットカード利用の実態を調べる。そして第 3 章では、第 2 章で得られたアンケート結果を元に、その分析をする。表またはグラフに表し、実際のカード事情はどうであるかを探る。続いて第 4 章では、第 3 章で分析した結果の原因を調べるために、県大生の金銭感覚と生活実態の視点から、さらに深く県大生におけるカード事情の実態を考察していく。金銭感覚においては、すでにあるアンケート調査の結果を引用し、その設問項目に対応して同じ設問を実際に県大生にも行った。また、生活実態においては、静岡県立大学学生委員会が行った、「生活実態調査」を参考に、本研究に関する質問項目に着手し、分析をする。最後に第 5 章では、本論文のまとめを述べる。

第1章 クレジットカードの予備知識

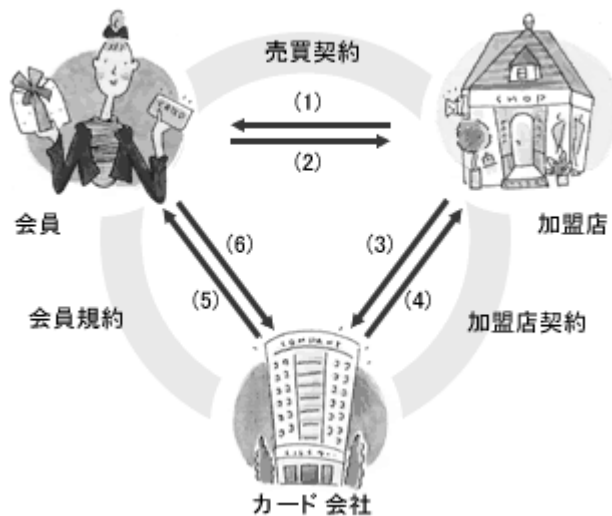
この章では、以下に行う卒論研究をよりわかりやすくするために、クレジットカードの一般知識を述べる。

第1節 クレジットとは

クレジットとはどんなものか、日本クレジットカード協会（JCCA）[1]によると、Creditを日本語に訳すと信用（名詞）、信用する（動詞）などになります。クレジットカードのクレジットとはまさにこの信用のことで、本来は利用者の信用に基づいた信用供与を意味しています。この信用を基に、利用者とカード会社の間に契約が結ばれ、買物や食事ができるようになっていきます。クレジットカードを利用することは『カード会社から一定期間、信用を供与されている』ことであるとある。つまり、クレジットとは、すべてが信用のもとに成り立つものであり、クレジットカードを利用することで、私たち消費者が現金を持ち合わせてなかったとしても、クレジットカード会社が一時的に商品やサービスを購入する際の代金を立替払いしてくれる機能を持っているということである。

また、クレジットには、「クレジットカード」と「ショッピングクレジット」の2種類の利用方法がある。社団法人全国信販協会[2]によると、「クレジットカード」とは、あらかじめ会員になり、加盟店でカードを提示しサインするだけで買い物やサービスの提供が受けられる利用方法であり、この卒論研究のテーマである“カード事情”とは、この「クレジットカード」のことを指している。もうひとつの「ショッピングクレジット」とは、信販会社の加盟店の店頭で申し込み手続きをすることで、カードなしで商品等の購入等ができ、車やジュエリーなど高額商品を、分割払いで購入するのに大変便利な利用方法となっている。

クレジットカードによる商品の購入・サービスの利用から、代金の支払いまでの仕組みを図で表すと、次の図1-1となる。



- (1) 商品・サービスの提供
 - (2) カード提示・売上票にサイン（もしくは端末機へ暗証番号を入力）
 - (3) 売上票送付
（売上データ伝送）
 - (4) 売上代金支払
 - (5) 利用代金明細書送付
 - (6) 利用代金支払
- ※利用代金の支払いは、お届けいただいた金融機関の決済口座から自動引き落としにより行なわれる。

図 1-1 クレジットカードの仕組み

出典：日本クレジットカード協会 [1] HP より抜粋

第 2 節 クレジットカードの歴史

1) クレジットカードの誕生

GP ネット [3]、クレジットカード・ジャパン (CJ) [4] によると、1949 年、ニューヨークの実業家フランク・マクナマラが友人のアルフレッド・ブレイミングデール、ラルフ・スナイダーと 3 人で、メジャーズ・キャビン・グリルという評判のレストランで食事をし、支払いの際に財布を忘れ、持ち合わせのお金がないことに気づく。そのときは夫人が支払って夫の面目を保ったものの、「普段お金を持っているのに、たまたま持ち合わせがないだけで信用を失ってしまうのは・・・」と考え、『食事をする人＝ダイナース』というお金を持たずに食事ができるシステムを作った。1950 年、マクナマラとスナイダーは同じレストランで食事をし、カードを提示してサインをすることで支払いの代わりにした。

これがクレジットカードの誕生とされている。

2) 日本のクレジットカード

GP ネット [3]、よくわかるクレジット&カード業界 [5] によると、1949 年、京都専門店会（地域の中小小売店が集まってできた組織）が企業の職域を通じて発行した「分割払いのもぎりのチケット」が、日本のクレジット産業の始まりとされている。このチケットはそれ以降、全国各地の専門店会へと波及していった。

このチケットの仕組みとは、まず企業の社員がチケットを利用するにあたって、企業に対して連帯保証をとり、あらかじめ一冊 3000 円程度の金額を印刷したチケット（切取りミシン線入りの金券で 50 円券、100 円券などが綴り合せてある）を社員に渡しておく。そして、加盟店で分割払いで買い物をするときには、そのチケットを切り取って利用する。チケットを利用した社員は、商品購入代金の 3 分の 1 ずつ給料天引きで支払えばよい。専門店会は、加盟店から手数料をとって、商品代金を立て替える。社員が使った分のチケット代金は、職場が各社員から給料天引きして、一括して専門店会に支払うというものである。

また、1951 年、日本信販が「クーポン」の発行を始めたのをきっかけに、各地に信販会社が設立され、クーポンが発行されるようになった。

そして、アメリカでクレジットカードが誕生してから 10 年後の 1960 年、アメリカのクレジットカード会社と日本の銀行などの提携により日本初のクレジットカード会社が設立された。「日本ダイナースクラブ」の誕生である。GP ネット [3] 参考によると、日本ダイナースクラブの設立後、翌 1961 年には、日本信販と三和銀行によってジャパנקレジットビューロ（現 JCB）が設立され、クレジットカードの発行が始まった。当時日本では、銀行法でクレジットカードは周辺業務とされていたため、銀行は相次いで子会社を設立してカード業務に乗り出した。1967 年に三菱銀行がダイヤモンド・クレジット（DC）を、住友銀行が住友クレジットサービスを設立。1968 年には東海銀行系のミリオンカードサービス（MC）、1969 年には、富士・第一勧業・三井・大和の 4 行によるユニオンクレジット（UC）と、銀行系クレジットカード会社の設立が続いた。これらのカード会社は、地方銀行とのフランチャイズ契約を積極的に行い、自社ブランドの確立とビジネスの拡大につとめ、その一方で、海外利用を見据えて、AMEX、VISA、MasterCard との提携を進め、自社ブランドのみの国内専用カードを「国際カード」に切り替えていくことで、利便性を高めていった。

1982 年、銀行法の改正により、クレジットカード業務が、これまでの周辺業務から付随業務として認められた以降、銀行本位によるクレジットカードの発行も可能になったことをうけて、1983 年より、地銀協はキャッシュカードとクレジットカード一体型のバンクカードの発行を始めた。しかし、都市銀行各行はその後カード子会社を維持してクレジット業務に当たっている。

3) クレジットカード年表(国内)

表1-1 クレジットカード年表(国内)

出典: クレジットカード大百科辞典 [6] HPより抜粋

1960年(昭和35年)	・日本ダイナースクラブ設立する ・丸井が日本初のクレジットカードを発行する
1961年(昭和36年)	・日本クレジットビューロ(現JCB)設立する
1963年(昭和38年)	・日本ダイナースクラブがカードを発行する
1966年(昭和41年)	日本信販がクレジットカードを発行する
1967年(昭和42年)	・ディーシーカード設立する ・住友クレジットサービス設立する ・JCBがアメックスと提携し国際カード発行する
1968年(昭和43年)	・ミリオンカードサービス設立する ・住友クレジットサービスがVISAの国際カードを発行する
1969年(昭和44年)	・ユニオンカード設立する ・オリエントコーポレーション・セントラルファイナンス・国内信販がクレジットカードを発行する
1970年(昭和45年)	・DCカードがMasterカードと提携し国際カードを発行する ・ジャックスがクレジットカードを発行する
1971年(昭和46年)	・ミリオンカードがMasterカードと提携し国際カードを発行する
1972年(昭和47年)	・ユニオンカードがMasterカードと提携し国際カードを発行する
1973年(昭和48年)	・日本信販がMasterカードと提携し国際カードを発行する
1980年(昭和55年)	・アメリカン・エクスプレスが日本でゴールドカードを発行する
1982年(昭和57年)	・住友クレジットがVISAプレミアムカード(ゴールドカード)を発行する ・UC、DC、MCがマスターゴールドカードを発行する
1983年(昭和58年)	・日本航空がクラブAカードを発行 ・アメリカン・エクスプレスがパーソナルカードを発行する
1987年(昭和62年)	・日本信販がスペシャルライセンス権にてVISAカードを発行する ・Masterとのデュアル発行を果す
1988年(昭和63年)	・DC・ユニオン・ミリオンがVISAカードを発行する
1989年(平成元年)	・オムニカード協会設立する ・VISAジャパングループがMasterとのデュアル発行を果す
1990年(平成2年)	・住友クレジット・DC・JCBがスーパーゴールドカードを発行する
1992年(平成4年)	・住銀アメックスがゴールドカード発行する
1993年(平成5年)	・アメリカンエクスプレスがプラチナカードを発行する
1998年(平成10年)	・日本信販・クレディセゾン・ダイエーOMC等がVISAのアクワイヤラー権を獲得する
2000年(平成12年)	・アメリカンエクスプレスがブルーカードを発行する ・日本ダイナースクラブがシティコープに買収され、シティコープダイナースジャパンに名称変更 ・住友クレジットサービスが国内で初めてVISAプラチナカードを発行する
2001年(平成13年)	・住友クレジットとさくらカードが合併し、三井住友カードを発足する
2002年(平成14年)	・シティコープダイナースジャパンが、ダイナースプレミアムカードを発行する ・MCと三和カードが合併し、UFJカードが発足する

第3節 成長するクレジット産業

日本クレジット産業協会 [7] の表 1-2「日本の消費者信用統計平成 17 年版」を参考に、クレジット産業の市場規模を見ていく。

クレジット産業の市場規模は、73 兆 147 億円（平成 17 年度）である。その内訳は、「販売信用」が 37 兆 9301 億円、「消費者金融」が 35 兆 846 億円となっている。クレジット産業は、後払いで商品等を購入する「販売信用」とお金を借り入れる「消費者金融」の2つの業務に大きく分けられる。さらに細かく見てみると、「販売信用」の中の「クレジットカード」分野は 26 兆 5819 億円、「ショッピングクレジット」分野は 11 兆 3482 億円であった。現在のクレジット産業は、対前年比で「ショッピングクレジット」と「消費者金融」全般においてマイナスを示しており、「クレジットカード」の成長に支えられていることがわかる。

表 1-2 日本の消費者信用統計平成 17 年版

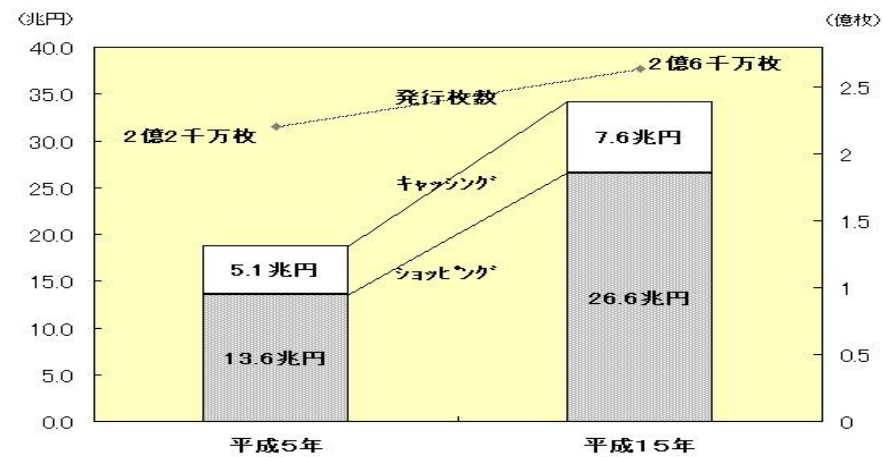
出典：日本クレジット産業協会 [7] HP より抜粋

取引形態		年		信用供与額			
				平成14年	平成15年	前年比	
消費者信用	販売信用	クレジットカード ショッピング	割賦方式	割賦販売	3,329	3,230	△ 3.0
				割賦購入あっせん	21,774	22,552	3.6
				割賦方式計	25,103	25,782	2.7
			非割賦方式	非割賦販売	28,784	31,786	10.4
				非割賦購入あっせん	192,903	208,251	8.0
		非割賦方式計	221,687	240,037	8.3		
		クレジットカードショッピング計	246,790	265,819	7.7		
	個品	割賦方式	割賦販売	10,109	9,916	△ 1.9	
			割賦購入あっせん	43,767	39,912	△ 8.8	
			ローン提携販売	426	387	△ 9.2	
提携ローン			27,993	29,494	7.7		
割賦方式計			81,695	79,709	△ 2.4		
非割賦方式	非割賦販売	22,185	21,321	△ 3.9			
	非割賦購入あっせん	12,789	12,452	△ 2.6			
	非割賦方式計	34,974	33,773	△ 3.4			
	個品計	116,669	113,482	△ 2.7			
	販売信用計	363,459	379,301	4.4			
		割賦方式計	106,798	105,491	△ 1.2		
		非割賦方式計	256,661	273,810	6.7		
消費者金融	消費者ローン	販売信用業務を行う	クレジットカード・キャッシング	75,991	75,662	△ 0.4	
		信用供与者による	その他消費者ローン	26,300	25,534	△ 2.9	
		消費者ローン	計	102,291	101,196	△ 1.1	
			民間金融機関	40,448	39,461	△ 2.4	
			消費者金融会社	101,917	97,507	△ 4.3	
		消費者ローン計	244,656	238,164	△ 2.7		
		定期預金担保貸付	96,647	91,254	△ 5.6		
		郵便貯金預金者貸付	22,633	20,629	△ 8.9		
	動産担保貸付	830	799	△ 3.7			
	消費者金融計	364,766	350,846	△ 3.8			
	消費者信用合計	728,225	730,147	0.3			

(推計) (社) 日本クレジット産業協会

(出典) (社) 日本クレジット産業協会「日本の消費者信用統計平成17年版」

次の図 1-2 は、「クレジットカード発行枚数（実数）とクレジットカード信用供与額（推計）」を示している。クレジットカード発行枚数は年々増加しており、平成 15 年では、2 億 6000 万枚、国民一人あたり約 2 枚所有していることになる。また、カードショッピングの取扱高は 26 兆 5819 億円であり、平成 5 年から平成 15 年の 10 年間で 2 倍に飛躍している。



項目	年	
	平成5年	平成15年
クレジットカード発行枚数	22,074	26,362
クレジットカード信用供与額	187,751	341,481
ショッピング	136,321	265,819
キャッシング	51,430	75,662

※クレジットカード発行枚数は年度末の数字。

図 1-2 クレジットカード発行枚数（実数）と
クレジットカード信用供与額（推計）

出典：日本クレジット産業協会 [7] HP より抜粋

第4節 クレジットカードの種類と特徴

クレジットカード会社を系列別に大きく3つに分類することができる。しかし、現在はほとんどのカードが VISA や Master などの国際カードと提携しているため、実際のところ系列別の差はほとんどない。

① 銀行系クレジットカード

銀行または銀行子会社が発行しているクレジットカード。信用を重視するため、発行審査が比較的厳しい。発行枚数においては、シェア1位である。

例：JCB カード、三井住友カード、UC カード、DC カードなど

② 信販系クレジットカード

信販会社が発行しているクレジットカード。

例：ニコス、オリコ、ジャックス、ライフカードなど

③ 流通系クレジットカード

流通企業または流通企業子会社が発行しているクレジットカード。

例：セゾン、イオン、OMC など

④ その他の系列のクレジットカード

カード発行会社自体の業種によって大きくサービスが異なる。

通信系...通信会社が発行するカード。

例：NTT グループカードなど

メーカー系...自動車メーカーなどが発行するカード。

例：ホンダ C カードなど

交通系...JR など、交通機関が発行するカード。

例：View カードなど

消費者金融系...消費者金融会社が発行するカード。キャッシング機能に付帯される。

例：アイフル、アコムなど

第2章 カード事情の実態

この章では、実際に行ったアンケート調査の結果を示す。

第1節 アンケート調査の概要

調査期間：2005年5月12日～7月19日

対象者：県大生、社会人

調査方法：対面調査およびアンケート回収様式

質問用紙を用いて、直接その場でアンケートを実施してもらい、回収するやり方と、アンケートを配布した1週間後に回収するやり方を行った。

有効回答：県大生 77名

社会人 29名

クレジットカードに関するアンケート用紙を作り、県大生と社会人に向けてアンケート調査を実施した。県大生を選んだ理由は、アンケートを採るのに一番効率的であったことと、県立が私立と国立の中間的存在であり、大学生として標準的と考えたからである。また、社会人は、なるべく職業が偏らないように、県大の教員をはじめ、筆者と関わりのある人をお願いして、アンケートに協力をしてもらった。ここで、社会人にも同じアンケート調査をしたのは、県大生との比較対照のためである。現在、たくさんのクレジットカードが出回っている中、どれほどまでに大学生であるわたしたちに、クレジットカードが浸透しているのか、調べるためである。そして、社会人においてはどうか、その実態を調べ、共通点あるいは相違点を見つけ出し、より詳しく県大生によるクレジットカード事情を調べるためである。

第2節 アンケート結果

1. クレジットカードの有無

「あなたはクレジットカードを持っていますか」という質問項目に対する回答結果は表 2-1 である。県大生においては、クレジットカードを持っていない人が目立ち、特に男子学生においては「持っていない」と回答した人が圧倒的に多かったことがわかる。

表 2-1 クレジットカードの有無

	学生		社会人	
	男	女	男	女
持っている	3	19	9	13
持っていない	28	27	4	3

2. 「クレジットカードを持っている」と答えた人の回答結果

2-1) クレジットカード所有枚数

「クレジットカードを持っていますか」という質問項目に対する回答結果は表 2-2 である。学生は、「1枚だけ」と答えた人が最も多く、複数持っている学生はほんのわずかであった。

表 2-2 クレジットカード所有枚数

	学生		社会人	
	男	女	男	女
1枚	2	16	3	6
2枚	1	2	2	4
3枚	0	1	1	3
4枚以上	0	0	3	0

2-2) 所有クレジットカードの種類分け

「あなたが持っているクレジットカードの種類は何ですか」という質問項目に対する回答結果は表 2-3 である。カードにはたくさんの種類があり、用途に応じて使い分けされているようである。

表 2-3 所有クレジットカードの種類分け

	学生	社会人		学生	社会人
銀行系クレジットカード			信販系クレジットカード		
三井住友 VISA カード	2	4	Nicos カード	1	6
JCB カード	2	8	ライフカード	0	0
UC カード	0	2	オリコカード	0	2
UFJ カード	1	0	ジャックスカード	0	2
DC カード	3	2	アプラスカード	0	2
アメリカンエクスプレス	2	1	CF カード	1	0
流通系クレジットカード			メーカー系クレジットカード		
イオンカード	2	1	マイソニーカード	1	0
セゾンカード	3	7	ホンダ c カード	0	0
OMC カード	0	0	マツダ m'z カード	0	0
IY カード	0	1	NTT グループカード	0	0
イオンクレジットカード	3	0	TS	0	1
タカシマヤカード	0	0	石油系クレジットカード		
UCS カード	0	1	シナジーカード	0	0
丸井	4	0	出光カードまいどプラス	0	1
松坂屋	0	1	JOMO カード	0	0
ローソンパス	1	0	コスモ・ザ・カード	0	0
その他のクレジットカード					
JAL カード	0	2			
ANA カード	0	2			
JR 東海	0	1			

2-3) クレジットカードを作ったきっかけ

「クレジットカードを作ったきっかけは何ですか」という質問項目に対する回答結果は表 2-4 である。社会人は、入会特典や年会費無料に引かれた以外に、現金代わりに使う人も多いようだが、学生においては、「入会特典に引かれた」以外に、会員証＝クレジットカードというケースが多いようである。

表 2-4 クレジットカードを作ったきっかけ

	学生	社会人
多額の現金を持ち歩かなくてもよい	2	5
現金払いの手間が省ける	3	11
家族または友達などに薦められた	3	1
会員証にクレジットカードの機能も付いていた	9	2
海外旅行に行くために作った	5	6
社会人になったから	0	0
年会費がかからない	2	6
ポイントサービス、お得な情報などの入会特典に引かれた	8	8
身分証明書として本人確認の役割も果すから	0	1
インターネットの支払いのため	0	1
携帯電話購入時に作った	0	1
多額の商品を買うのに作らされた	0	1
なんとなく	0	1
通販購入時の振込みの手間を省くため	0	1
プロバイダー支払いのため	0	1
お金がなかったから	1	0
カード会社に薦められた	0	1

2-4) クレジットカードの利用頻度

「クレジットカードの利用頻度はどれくらいですか」という質問項目に対する回答結果は表 2-5 である。学生は、クレジットカードを持っていても使わない人がほとんどで、利用頻度は少ない。それに比べて社会人は、1ヶ月に1回程度あるいは月に5回以内の利用があるようである。

表 2-5 クレジットカードの利用頻度

	学生	社会人
ほぼ毎日	0	1
週3, 4回	1	2
月に5回以内	3	5
一ヶ月に1回程度	3	7
あまり使わない	5	6
全く使わない	10	1

2-5) 月に使うカードの支出額

「月に使うカードの支出はどれくらいですか」という質問項目に対する回答結果は表 2-6 である。やはり、学生においては5万円以上のカード利用はなく、利用頻度も少ないことから支出額も1万円以内と少ない。しかし、社会人になると支出額も増え、5万、10万と使う人もいるようだ。

表 2-6 月に使うカードの支出額

	学生	社会人
1万円以内	15	10
5万円以内	5	8
10万円以内	0	4
10万円以上	0	0

2-6) クレジットカードを使うシチュエーション

「どのようなときにクレジットカードを利用しますか」という質問項目に対する回答結果は表 2-7 である。学生は、クレジットカードを持っているだけで「利用したことがない」と回答した人が最も多かったが、デパートや百貨店、留学時や海外旅行の際に利用するようである。それに比べて社会人は、様々な場所でクレジットカードを利用していることがわかる。

表 2-7 クレジットカードを使うシチュエーション

	学生	社会人
インターネットショッピング	4	5
デパートや百貨店	6	7
携帯電話料金やプロバイダーの支払い	1	7
家電用品店	0	5
スーパー	3	2
ガソリンスタンド	0	5
レストランや飲食店	0	3
ホテル	0	2
国内旅行先	2	2
鉄道の切符や高速道路の使用料金等	2	3
小売店、コンビニ	2	2
カタログやテレビの通販ショッピング	1	2
海外旅行先	5	6
インターネットオークション	0	1
テーマパーク等娯楽施設	0	0
家賃の支払い	0	1
現金がないとき	2	0
割引時	1	0
利用したことがない	9	1

2-7) クレジットカードの利用目的

「クレジットカードを利用する理由はなんですか」という質問項目に対する回答結果は表 2-8 である。ここでは、社会人、学生ともにクレジットカードのキャッシュレスな部分に魅力を感じていることがわかった。

表 2-8 クレジットカードの利用目的

	学生	社会人
ポイントを貯めることによってもらえる商品が魅力的	3	5
買い物の際に割引がある	6	4
キャッシュバックがある	1	0
よく利用するお店で使える	2	5
ポイント還元率が高い	0	2
国内で使える店が多い	1	3
海外で使える国や都市が多い	6	3
ポイントがマイレージに換えられる	0	5
レジャー施設や映画館で割引になる	0	0
観劇やコンサートのチケット優待サービスがある	0	0
キャッシングの利率が低い	0	1
臨時の出資(出費)にすぐ対応できる	6	10
手持ちの現金がないときだけ利用する(特に給料日前など)	6	4
ネットショッピングに便利	0	1
便利だから	0	1
社割がきくから	1	0

2-8) クレジットカードの便利度

「現金払いではなく、クレジットカードを利用することで、生活が便利であると思えますか」という質問項目に対する回答結果は表 2-9 である。社会人は「大変便利である」と感じている人が最も多いのに対して、学生の意見は様々で、「便利だとは思わない」と感じている人も少なくないようだ。

表 2-9 クレジットカードの便利度

	学生	社会人
大変便利である	6	10
時々便利だと感じる	8	6
どちらでもない	3	5
便利だとは思わない	5	1

3. 「クレジットカードを持っていない」と答えた人の回答結果

3-1) クレジットカードを持っていない人の考え

「クレジットカードを持ちたいとお考えですか」という質問項目に対する回答結果は表 2-10 である。学生は「持ちたい、または今後持つ予定だ」という意見もあるが、「持ちたいとは思わない」という意見の方が多いようである。

表 2-10 クレジットカードを持っていない人の考え

	学生	社会人
持ちたい、または今後持つ予定だ	21	4
持ちたいとは思わない	34	3

3-2) 持ちたい、または持つ予定である理由

「持ちたい、または持つ予定である理由は何ですか」という質問項目に対する回答結果は表 2-11 である。「持ちたい」と考えている学生においては、現金代わりにクレジットカードが使えることの利点や特典サービス、年会費無料に引かれるようである。

表 2-11 持ちたい、または持つ予定である理由

	学生	社会人
多額の現金を持ち歩かなくてもよい	12	0
ポイントサービスやお得な情報を得ることができる	10	2
現金払いの手間が省ける	10	2
海外に行く予定がある	3	0
身分証明書として使える	2	0
年会費が無料なカードなら1枚くらい持っていたい	9	3
オークションで使いたい	1	0
みんな持っているから	0	1
商品を買うときに代引き手数料がかからなくなる	1	0

3-3) 持ちたくない理由

「持ちたくない理由は何ですか」という質問項目に対する回答結果は表 2-12.1 である。学生は、日常の生活の中でクレジットカードを必要とする場があまりないと考えられる。また、使いすぎの危険や盗難、不正行為などの社会問題にも関わってくるようである。

表 2-12.1 持ちたくない理由

	学生	社会人
つつい使いすぎる危険がある	29	1
債務負担が増大してしまう	4	0
支払い手数料がかかる	5	0
クレジットカードを作るのが面倒だから	7	1
貯蓄の低下が心配	3	0
盗難や不正行為などの問題がある	18	2
クレジットカードを持っていなくても生活に支障はない	21	3
情報の流出の可能性がある	0	1

3-4) クレジットカードのサービスと特典について

そこで、「どのようなカードやサービスならクレジットカードを利用してみたいと思いますか」という質問項目に対する回答結果は表 2-12.2 である。学生は、割引やポイントサービスという言葉に弱く、また、お金を失くしても戻ってくる保障がないのに対し、クレジットカードは補償や保険がしっかりしていることも魅力となっているようである。

表 2-12.2 クレジットカードのサービスと特典について

	学生	社会人
ネット上で不正行為された際の代金の補填	9	1
ポイントが貯まりやすい	8	1
紛失時に緊急に対応してくれる	11	2
カード提示や利用でショッピングや飲食の割引や特典がある	7	0
購入した商品破損時の保険が付帯している	2	0
複数の会社(種類)のポイントが1つにまとめられる	6	0
海外旅行保険が付帯している	4	0
国内旅行保険が付帯している	3	0
観劇、コンサート等のチケットが優先的に予約できたり、割引がある	11	0
ホテルに宿泊の際に部屋のグレードがあがる	2	0
1枚のカードで、複数の会社(種類)として使える	9	1
リボルビングやキャッシングの利率が低い	2	1
ポイントがマイルに換えられる	1	0
自分が決めた金額で自由返済できる	4	0
ETCの支払いができる	3	0
携帯電話の機能でクレジットカード代わりになり、支払いができる	2	0
カードに自分のお気に入りの写真やイラストが印刷してもらえる	2	0
どれも思わない	1	0

第3章 結果分析

この章では、第2章でのアンケート結果をもとに大学生のカード事情について考察する。

第1節 クレジットカード所持の割合

「クレジットカードを持っているか」、また、「持っている人は何枚持っているか」という質問に対する回答結果は図3-1である。

学生は、クレジットカードを持っていない率が最も多く、全体の約60%を占めている。その中でも、男子と女子で大きな差が見られ、男子学生のクレジットカード所持率が、9.7%に対し、女子学生は、41.3%。男女ともに、クレジットカード所持率が低いですが、男子は特にクレジットカードを持っていない人が圧倒的に多いことがわかった。

それに対し、社会人は、クレジットカード所持率が75.9%であり、大体の人が持っていることになる。しかし、2枚以上となると、割合は減少し、44.9%であった。

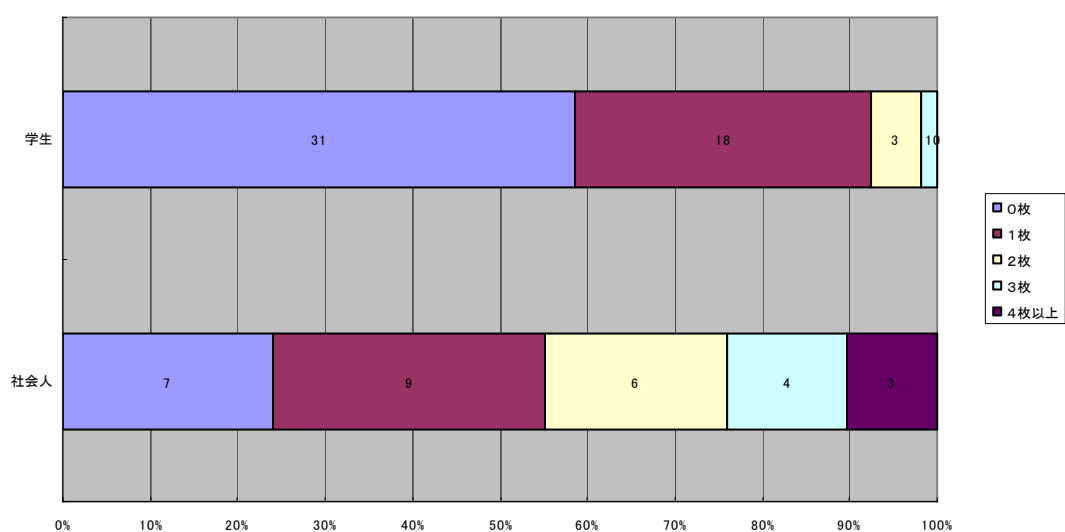


図3-1 クレジットカード所持の割合

第2節 クレジットカードの利用頻度とその利用額

そこで、次に示すグラフは、クレジットカードを持っている人で、クレジットカードの利用頻度の割合と月に使うカードの利用額の割合の結果である。利用頻度の割合を図 3-2 に、月に使うカードの利用額の割合を図 3-3 に示す。

まず、利用頻度の割合の結果では、学生は、持っているでも全く使わないと答えた学生が最も多く、全体の 45.5% を占めていた。ほぼ毎日使うと答えた学生は 0% であり、県大生においては、カード社会よりも、まだまだ現金社会であることが言える。それに対して、社会人は、あまり使わないと答えた人の割合が 28.6% ではあったが、一ヶ月に 1 回程度、または月に 5 回以内の利用層も高く、ともに、33.3%、23.8% を占めており、学生に比べると、利用度は高いようである。

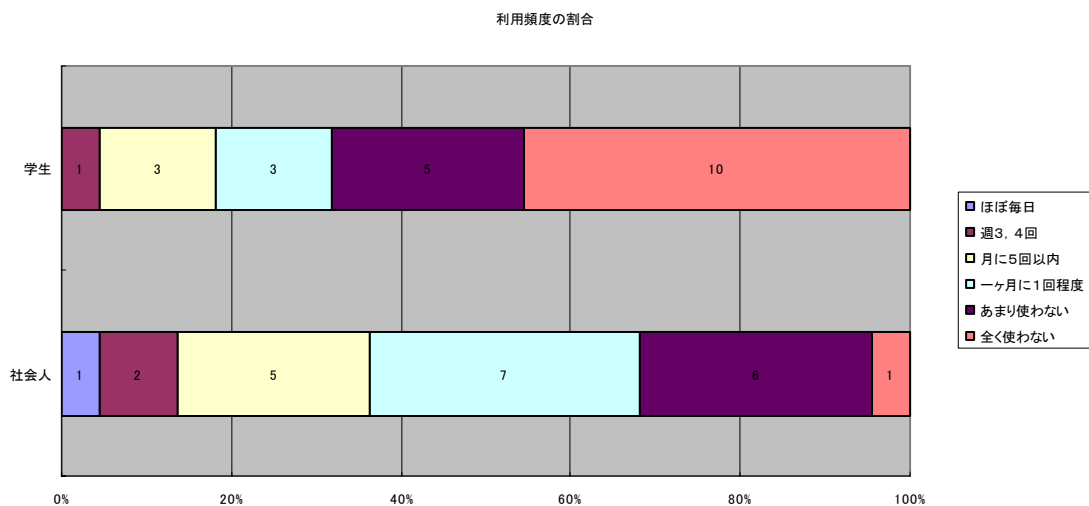


図 3-2 利用頻度の割合

そして、月に使うカードの利用額の割合においては、利用頻度の少ない学生では、やはり利用額も少なく、1 万円以内が 75% を占めていた。社会人においても、1 万円以内の割合が最も多く、45.4% であったが、続いて 5 万円以内が、36.4%、10 万円以内が、18.2% であり、生活の一部にクレジットカードを利用する人も少なくないことがわかる。

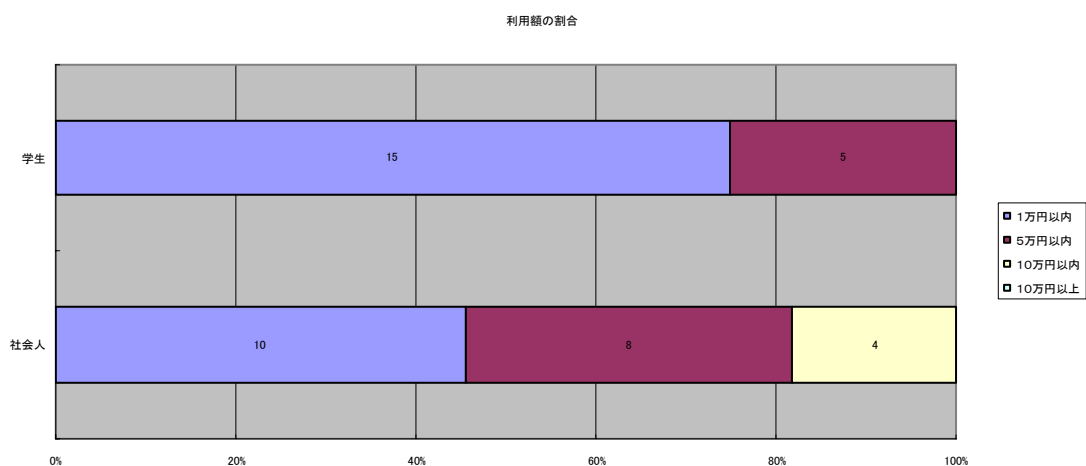


図 3-3 月に使うカードの利用額

そこで、利用頻度と利用額の関連性を調べるために、縦に利用額、横に利用頻度とし、マトリックスを図で示した。

まず、マトリックスを示したのが、表 3-1 である。

表 3-1a 利用頻度と利用額の関係（学生）

学生		月に使うカードの支出額			
		～1万円	～5万円	～10万円	10万円～
クレジット カードの 利用 頻度	ほぼ毎日	0	0	0	0
	週3・4回	1	0	0	0
	月5回以内	1	2	0	0
	一ヶ月に1回程度	0	3	0	0
	あまり使わない	5	0	0	0
	全く使わない	10	0	0	0

表 3-1b 利用頻度と利用額の関係（社会人）

社会人		月に使うカードの支出額			
		～1万円	～5万円	～10万円	10万円～
クレジット カードの 利用 頻度	ほぼ毎日	0	0	1	0
	週3・4回	0	2	0	0
	月5回以内	1	3	1	0
	一ヶ月に1回程度	4	1	2	0
	あまり使わない	4	2	0	0
	全く使わない	1	0	0	0

そして、表 3-1 をもとに、図で示したのが図 3-4 である。その結果、利用額と利用頻度の違いはあるものの、学生・社会人ともに、利用回数が増えれば、利用額も多くなること
 がわかる。

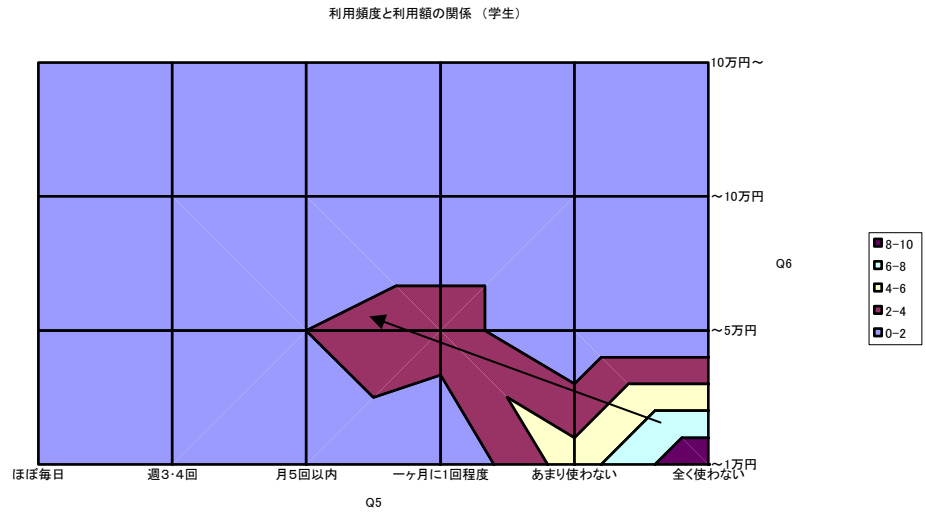


図 3-4a 利用頻度と利用額の関係（学生）

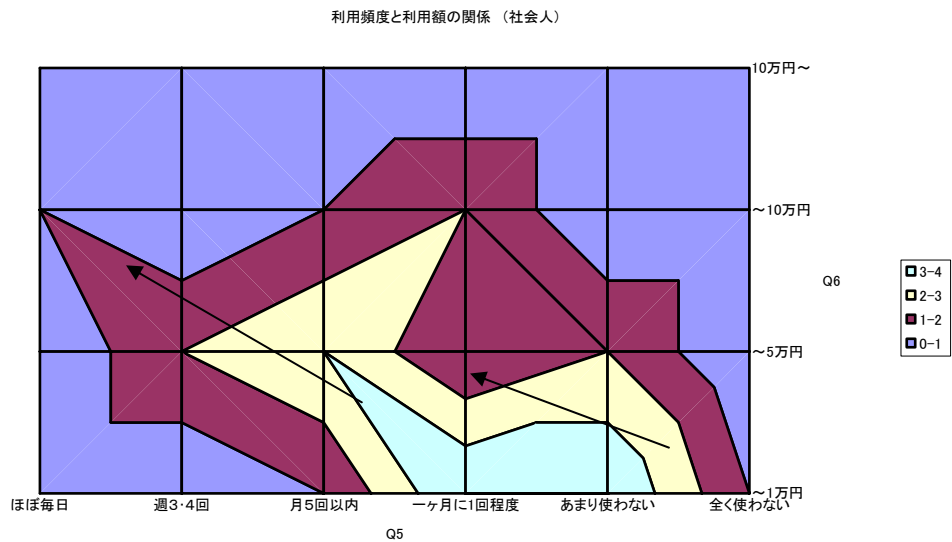


図 3-4b 利用頻度と利用額の関係（社会人）

第3節 クレジットカードを作ったきっかけ

それでは、学生のクレジットカード利用率が少ないのに対し、クレジットカードを作ったきっかけは一体何なのか、次の項目から該当する項目3つ以内で選択してもらった。

- 多額の現金を持ち歩かなくてもよい
- 現金払いの手間が省けた
- 家族または友達などに薦められた
- 会員証にクレジットカードの機能も付いていた
- 海外旅行に行くため
- 社会人になったから
- 年会費がかからない
- ポイントサービス、お得な情報などの入会特典に引かれた
- 身分証明書として本人確認の役割も果たすから
- その他

その結果を図3-5に示す。学生で最も多かった項目は、「会員証にクレジットカードの機能も付いていた」で、27.3%であった。学生がクレジットカードを作るきっかけは、成り行き上、またはなんとなくクレジットカードを持つことになったからであり、クレジットカードの利用目的ではないことがわかる。そのことから、利用率が少ない原因の一つであると言える。また、その他にも、「海外旅行に行くために作った」が、15.2%であり、やはり海外旅行や留学の際に、安全のため、現金代わりに持ち歩く人も少なくないようだ。社会人においては、「現金代わりの手間が省ける」が23.4%と最も多く、カード=現金代わりと考えているようだ。両方に意識の違いがあるものの、ともに多かった項目は、「ポイントサービス、お得な情報などの入会特典に引かれた」であり、学生が24.2%、社会人が17.0%であった。

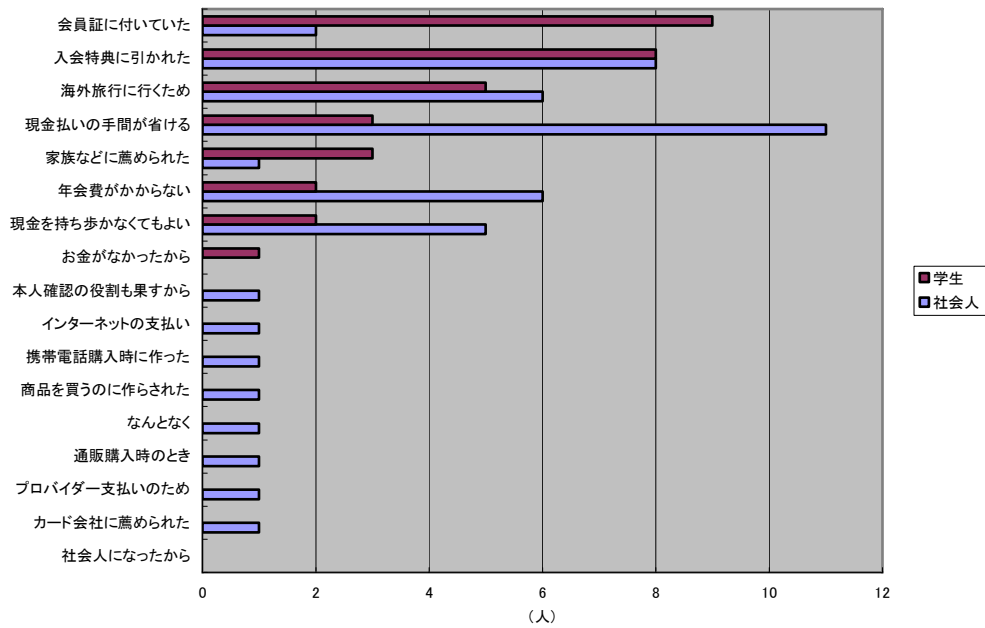


図 3-5 クレジットカードを作ったきっかけ

第 4 節 クレジットカードの利用方法

次に、「どのような時にクレジットカードを利用するのか」という質問項目に対する回答結果を図 3-6 に示す。

やはり、学生においては、「利用したことがない」という答えが圧倒的に多く、全体の 23.7% を占めていた。次に、デパートや百貨店が 15.8%、海外旅行先が 13.2% であった。それに比べて社会人は、いろいろな場所でクレジットカードを利用していることがわかった。デパートや百貨店のほかに、携帯電話料金やプロバイダーの支払い、インターネットショッピングでクレジットカードを使う人も多いようだ。双方に見られたのは、海外旅行先での利用である。やはり海外では、現金よりも手軽で安全なカードのほうが便利なのであろう。

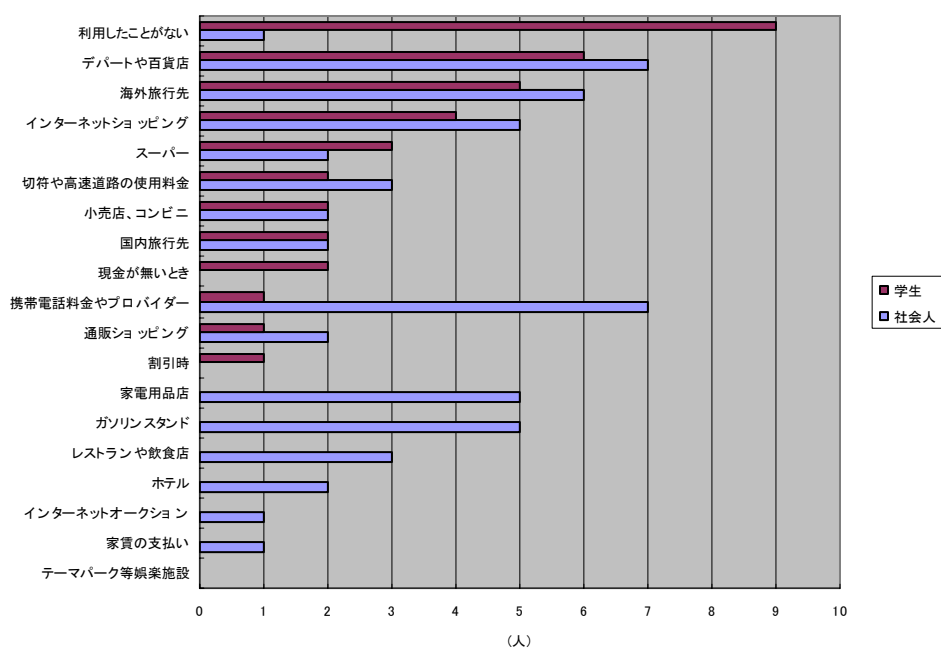


図 3-6 クレジットカードの利用方法

第5節 クレジットカードの利用理由

「クレジットカードを利用する理由は何ですか」という質問項目に対する回答結果は図 3-7 である。まず、16の項目を3つのグループに分類した。また、その割合である。

- | | | | | |
|------------------|----|--------|-----|--------|
| ①：割引などによるサービス・特典 | 学生 | ：31.2% | 社会人 | ：9% |
| ②：キャッシュレス | 学生 | ：65.7% | 社会人 | ：59% |
| ③：カードを使うことによる特典 | 学生 | ：3.1% | 社会人 | ：20.5% |

結果、キャッシュレスにより利用する割合が、学生・社会人ともに多かった。財布にお金がなくても、カード一枚で急なときにも対応できる点では、両者ともに利便性を感じているようだ。また、次に割合の高かったのが、学生では「割引などによるサービス・特典」、社会人では「カードを使うことによる特典」と意見が分かれた。学生は、単にその場での割引に魅力を感じ、社会人は、キャッシュバックや低利率といった、後に得する情報に魅力を感じるようだ。

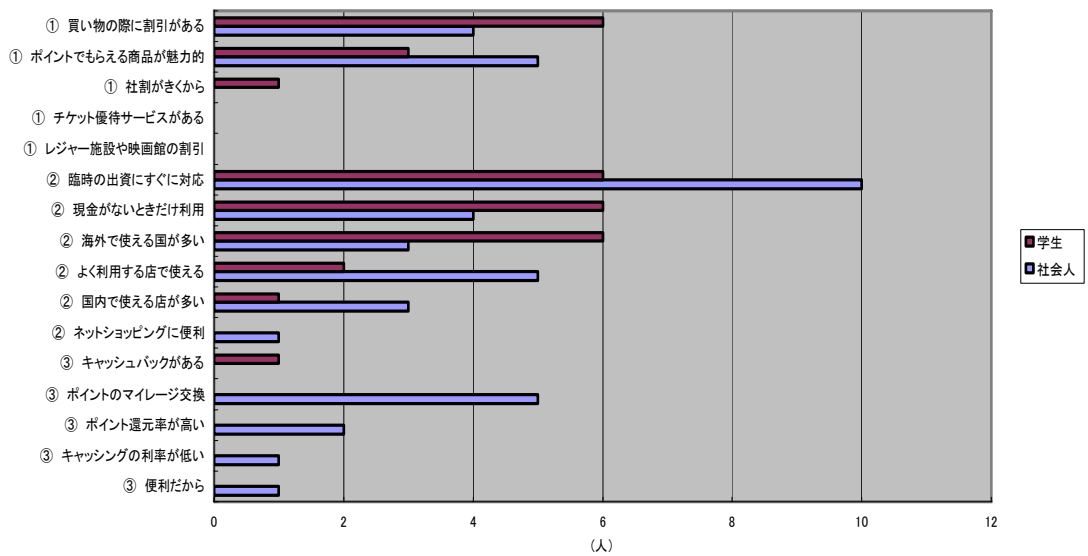


図 3-7 クレジットカードの利用理由

第 6 節 便利度の割合

そして最後に、「クレジットカードを利用することで、生活が便利であると言えるか」という質問項目に対する回答結果は図 3-8 である。

学生で最も割合が多かったのが、「時々便利だと感じる」で、42%だったのに対し、社会人は、「大変便利である」という答えが最も多く、45.5%であった。利用額や利用目的では両者に差があるものの、使ってみるとクレジットカードが便利だと感じる人が多いことが見受けられる。

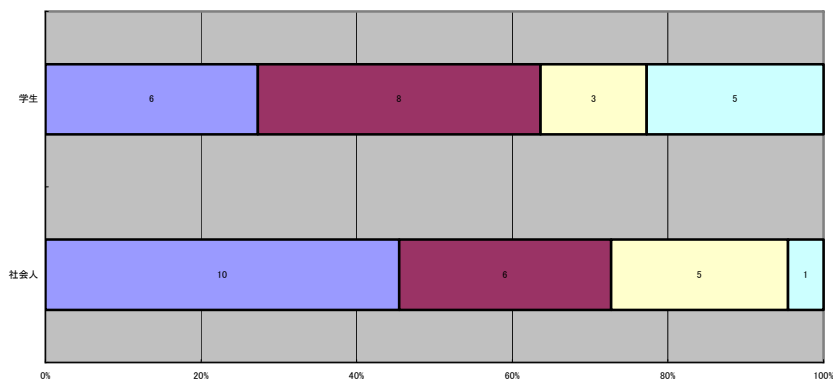


図 3-8 便利度の割合

第7節 利用頻度と枚数、便利さの関係

そこで、どこで便利さがわかるかを調べるために、利用頻度に着目し、“利用頻度と枚数の関係”・“利用頻度と便利さの関係”を図で表してみた。

まず、“利用頻度と枚数の関係”を示したのが、表 3-2 である。

表 3-2a 利用頻度と枚数の関係(学生)

学生	クレジットカードを何枚持っているか			
	1枚	2枚	3枚	4枚以上
まったく使わない	9	0	1	0
あまり使わない	4	1	0	0
一ヶ月に1回程度	3	0	0	0
月5回以内	2	1	0	0
週3, 4回	0	1	0	0
ほぼ毎日	0	0	0	0

表 3-2b 利用頻度と枚数の関係 (社会人)

社会人	クレジットカードを何枚持っているか			
	1枚	2枚	3枚	4枚以上
まったく使わない	1	0	0	0
あまり使わない	3	1	2	0
一ヶ月に1回程度	4	1	2	0
月5回以内	0	4	0	1
週3, 4回	1	0	0	1
ほぼ毎日	0	0	0	1

そして、表 3-2 をもとに、図で示したのが図 3-9 である。学生は、枚数が 1 枚、まったく使わないと回答した部分に集中しており、そのまま横ばいにひろがっているのがわかり、あまり関係性はないようだ。それと対照して、社会人は、クレジットカードの枚数が多ければ、利用頻度も多くなり、利用頻度と枚数に関係性があると言える。

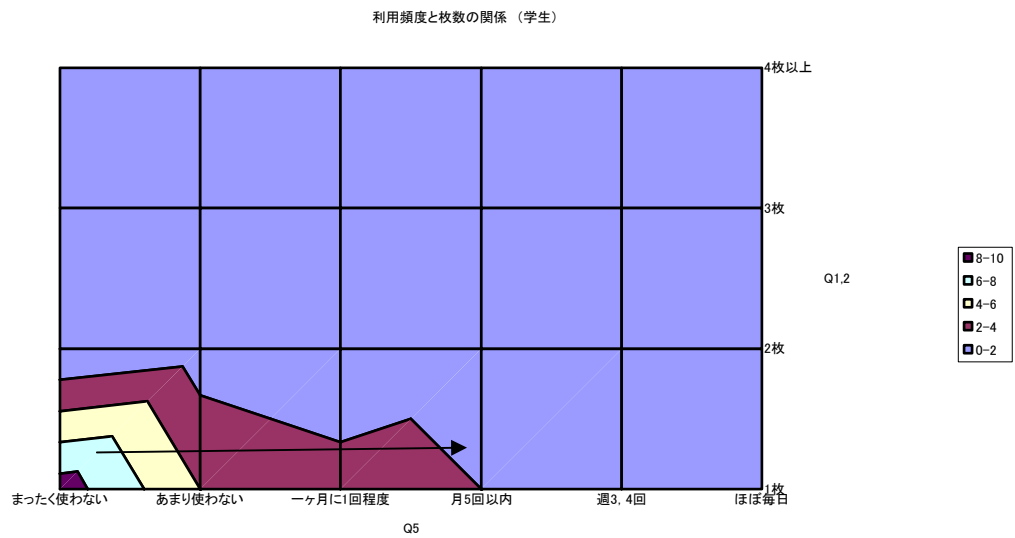
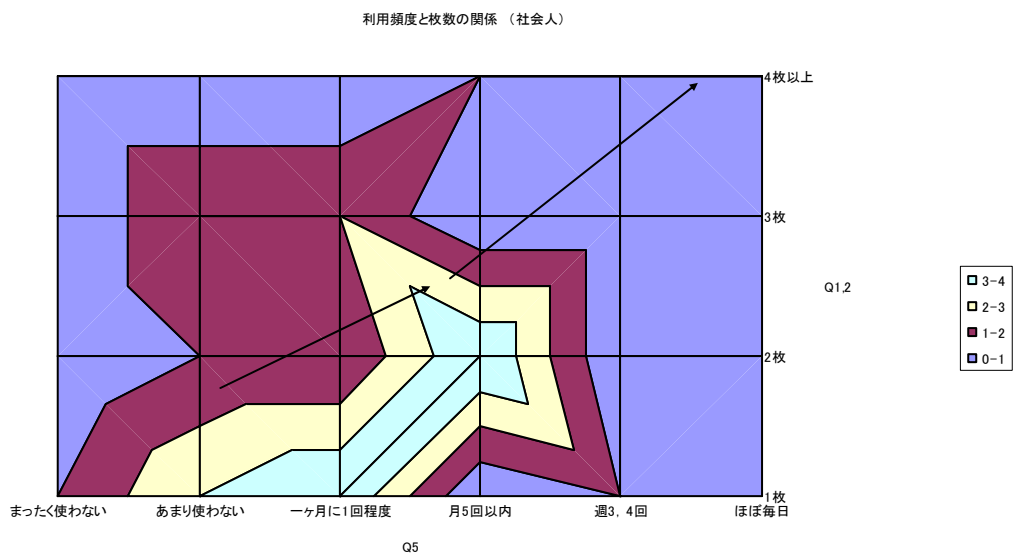


図 3-9a 利用頻度と枚数の関係（学生）



3-9b 利用頻度と枚数の関係（社会人）



次に、“利用頻度と便利さの関係”を示したのが、表 3-3 である。

表 3-3a 利用頻度と便利さの関係（学生）

学生	便利さ			
	便利だと思わない	どちらでもない	時々便利	大変便利
全く使わない	4	2	4	0
あまり使わない	1	1	1	2
一ヶ月に1回程度	0	0	1	2
月5回以内	0	0	1	2
週3, 4回	0	0	1	0
ほぼ毎日	0	0	0	0

表 3-3b 利用頻度と便利さの関係（社会人）

社会人	便利さ			
	便利だと思わない	どちらでもない	時々便利	大変便利
全く使わない	0	1	0	0
あまり使わない	1	1	3	1
一ヶ月に1回程度	0	3	3	1
月5回以内	0	0	0	5
週3, 4回	0	0	0	2
ほぼ毎日	0	0	0	1

そして、表 3-3 をもとに、図で示したのが図 3-10 である。このグラフから、学生は「まったく使わない」という回答に集中しており、関係性は見られない。それに対して、社会人は、利用頻度に合わせて、右肩上がりのグラフになっており、とくに、利用頻度が多い人では、みんな「大変便利だ」と感じ、たまに使う人は、カードを利用することで、便利だと感じるようだ。

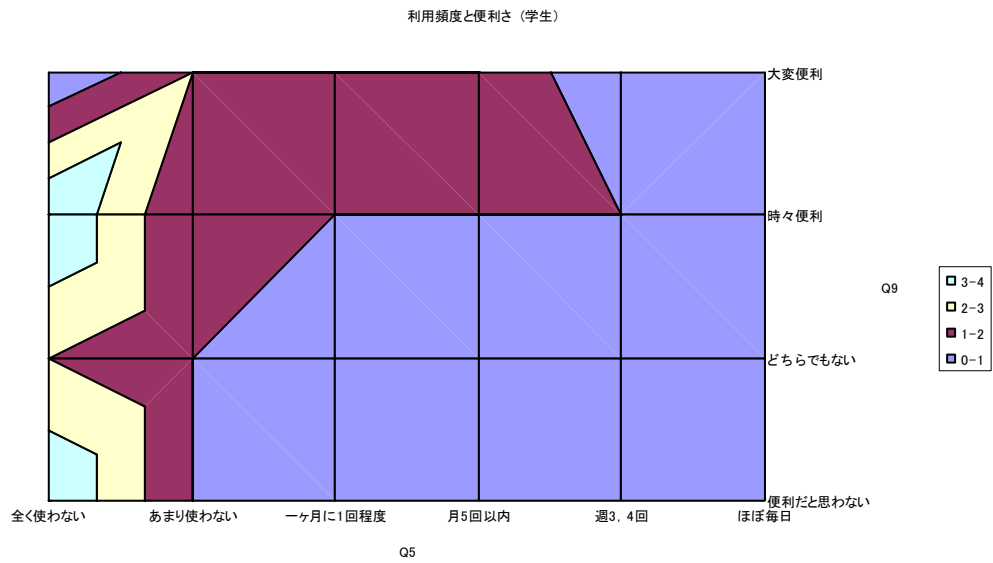


図 3-10a 利用頻度と便利さの関係(学生)

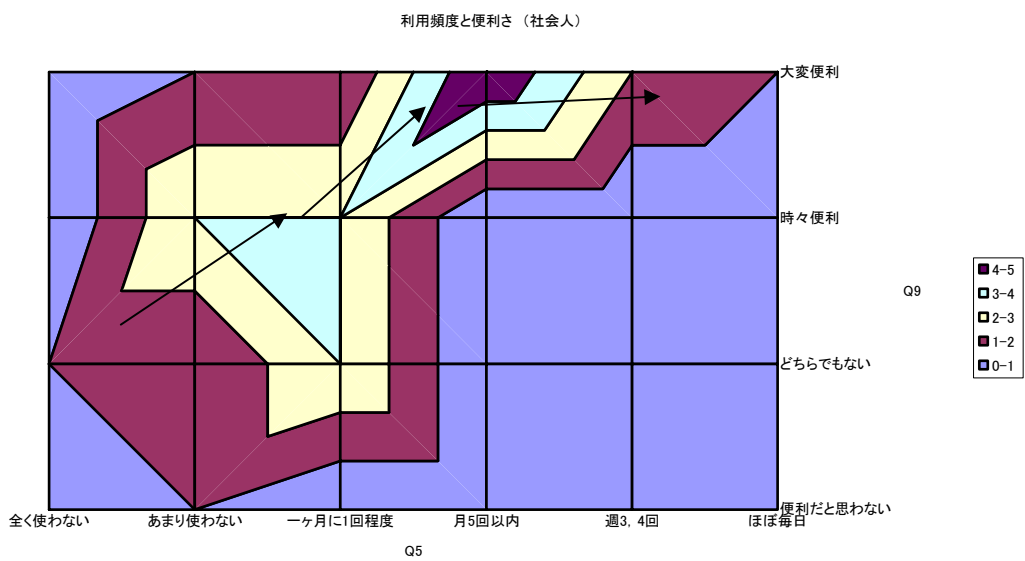


図 3-10b 利用頻度と便利さの関係 (社会人)

第8節 クレジットカードを持っていない人の回答結果

次に、クレジットカードを持っていない人に対する質問項目の回答結果を見てみる。学生は、クレジットカードを持っていない率が最も多く、全体の約60%を占めているという結果が出たが、その理由とは何か、原因を見ていく。

まず、「クレジットカードを持ちたいとお考えですか」という質問項目に対する回答結果を図3-11に示す。所持率が低かった学生に注目してみると、「持ちたい、または今後持つ予定」のある人が38.2%、「持ちたいとは思わない」と答えた人が61.8%という結果であった。大部分の学生がクレジットカードを持つ予定はなく、クレジットカードに対する意識は低いようである。

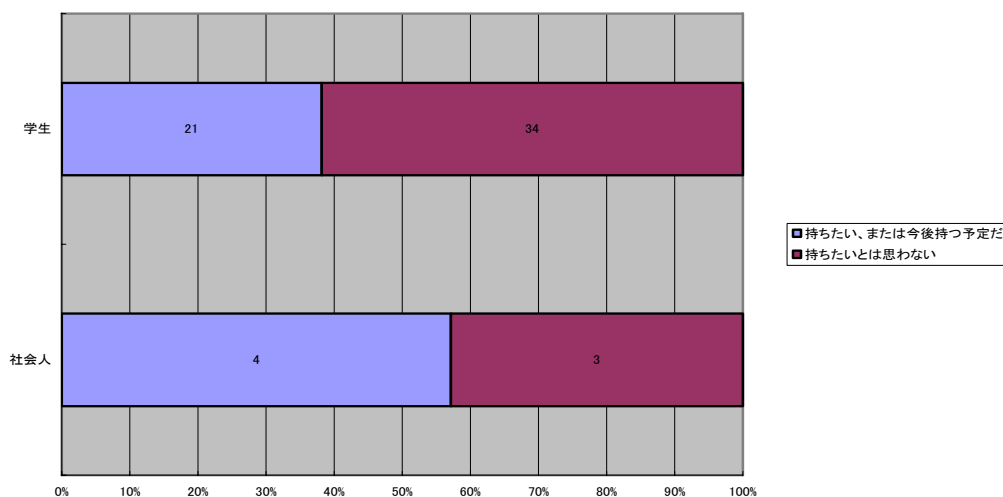


図 3-11 クレジットカードを持ちたいと考えているかどうか

それでは、なぜ持ちたいと思わないのか、それに対する回答結果を図3-12に示す。

学生の生活資金は、主にバイトや仕送りといった限られた資金でしかない。そのため、現金を持ち合わせていなくてもカード1枚で何でも買ってしまうという利便性はあるものの、つい使いすぎてしまったり、その後の支払い能力に不安を抱いていたり、という理由がとて多かった。また、普段の生活にクレジットカードがなくて不便だと思うことはなく、生活に支障が感じられないのも理由の一つであった。その他に、ニュースで見かける、個人情報の流出、盗難や悪質な不正行為などに対する不安も感じているということがわかった。

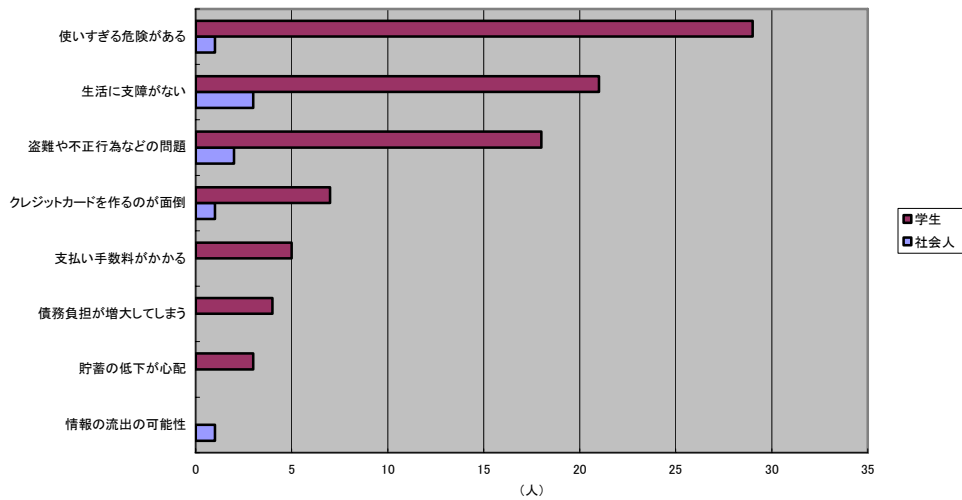


図 3-12 持ちたいと思わない理由

そこで、「持ちたいとは思わない」と回答した人に、「どのようなカードやサービスならクレジットカードを利用してみたいと思いますか」といった質問をしてみたところ、次の図 3-13 に示す結果となった。この質問では、学生において、すべての項目に回答があり、意見はいろいろであったが、やはり割引やポイントといったサービスに魅力を感じるようだ。

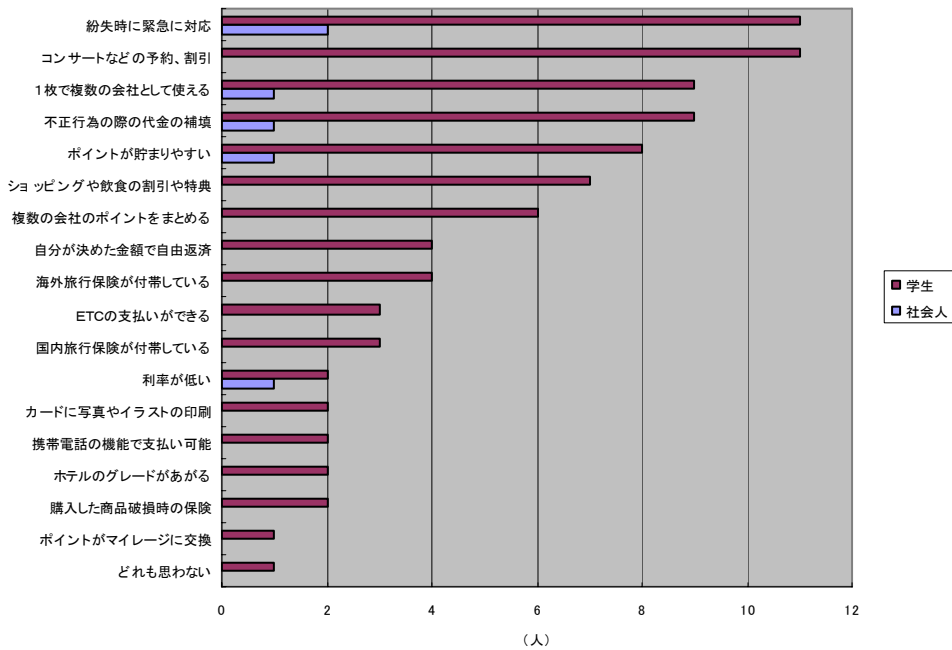


図 3-13 クレジットカードを利用してみたい理由

最後に、「クレジットカードを持ちたい、または今後持つ予定だ」と回答した人に、カードを持ちたい理由を聞いてみたところ、図 3-14 の結果となった。学生を見てみると、「多額の現金を持ち歩かなくてよい」という意見が一番多く、続いて、「ポイントサービスやお得な情報を得ることができる」「現金払いの手間が省ける」といった意見が挙げられた。実際クレジットカードを持っていない人でも、クレジットカードの利便性を理解し、このような意見がでたと考えられる。今回の調査では、クレジットカード所持の学生は少なかったものの、この結果から今後はもっとその割合は増大するであろう。

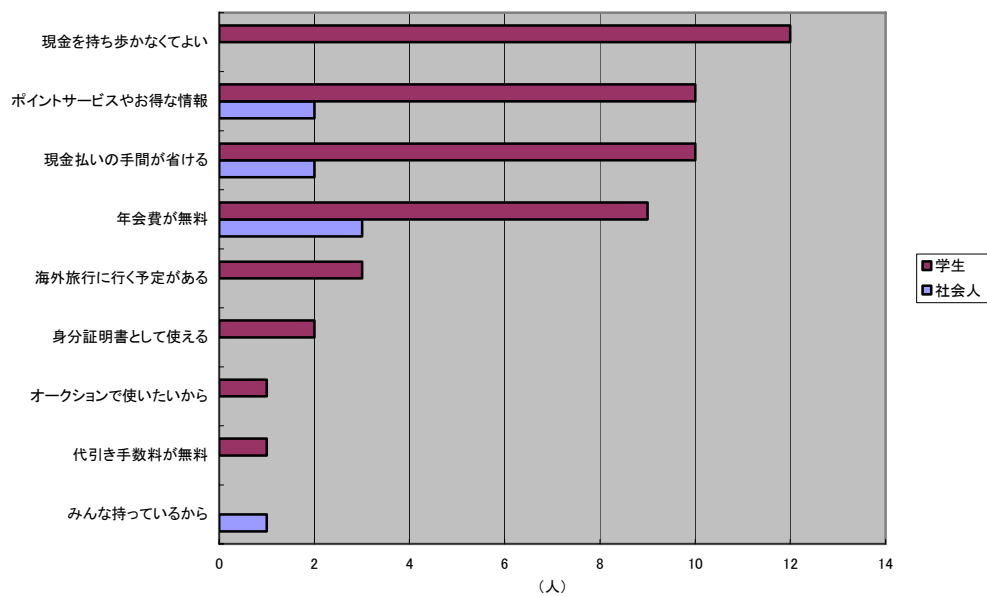


図 3-14 カードを持ちたい理由

第4章 県大生の金銭感覚と生活の実態

第3章では、県大生のクレジットカードに対する浸透性はまだまだ浅いことがわかった。利用頻度や利用額においても、社会人に比べたらその程度は低い。そこで、この章では、なぜそのような結果となったのか、他の視点から県大生のカード事情を考察し、また、社会人との共通点や相違点を見つけ出す。

第1節 県大生とOL女性の金銭感覚

4-1.1) アンケート調査の概要

調査期間：11月2日、11月9日

調査目的：第3章 図3-2「利用頻度の割合」より、県大生はクレジットカードの利用が少なく、カードを持っていても使わない人が多いことがわかった。カード払いがどの場所、どの店でも利用することができるようになったのに対し、現金払いで済みます。カードをあまり使用しない習慣であるという結果であった。では、カードを持つ必要性を感じていないのはなぜか、金銭感覚の視点から考察するためである。

調査対象：県大生

“クレジットカードに対するアンケート調査”と同様、県大生に行った。学部はすべての学部にまたがっており、男女の比率も同等である。

調査方法：対面調査

質問用紙を用いて、直接その場でアンケートを実施してもらい、回収する。

回答数：38名

※ OL女性のデータにおいては、サンケイリビング新聞社 [8] HPよりシティリビング公式サイト「ホンネのOL研究所～お金について」で、調査したい項目に都合の良いアンケート調査がすでにあつたので、その調査結果を引用し、その設問項目に対応して同じ設問を県大生にも行った。

4-1.2) 財布の中身はほぼ把握

「あなたは財布にいくら入っているか把握していますか」という質問項目に対する回答結果を表 4-1 に示す。また、図で表したのが図 4-1 である。

この結果から、県大生と OL 女性に違いは見られず、両者とも 9 割近くの方が財布にいくら入っているのかほぼ把握していることがわかった。買い物の支払いの際に財布を出したら「お金が無い」というようなこともあまりないと考えられる。クレジットカードの利用に対し、財布の中身は関連性がないと考えられる。

表 4-1 財布の中身を把握しているか

	県大生	
	男	女
いつも把握している	2	2
大体把握している	9	11
たまに把握している	2	2
把握していない	2	0

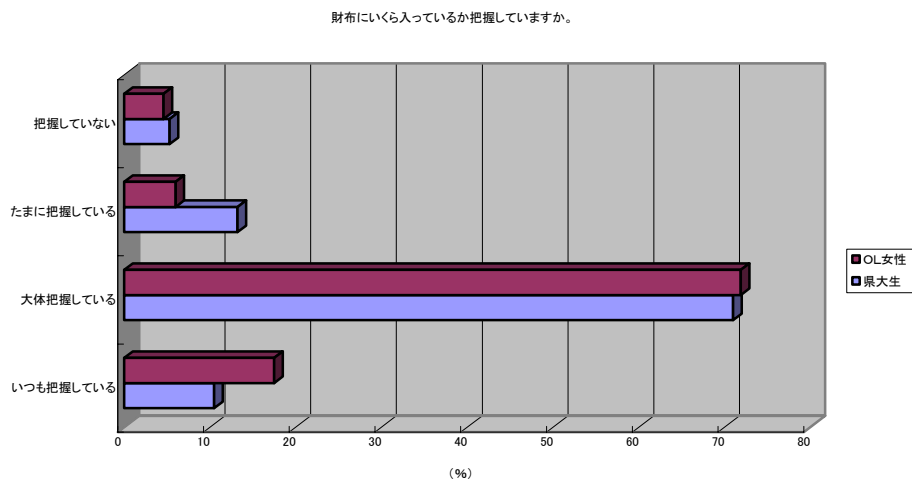


図 4-1 財布の中身を把握しているか

4-1.3) 財布の中身がいくらになると不安か

「財布の中身がいくらになると不安ですか」という質問項目に対する回答結果を表 4-2 に示す。また、図で表したのが、図 4-2 である。

財布の中身においては、OL 女性は、財布にお札が入っていないと不安だと感じる人が

多いのに対して、県大生は、お札が入っていても不安に感じる事が少ない。普段の生活上、学校に行くためだけの目的なら、お札が入っていても生活に支障はないようだ。OL 女性の場合、1000円無ければランチをしのぐことも大変だが、学生であれば500円あれば学食で十分なランチができる。毎日生活していれば、何かとお金を使うことが多いものだが、学生と社会人とはその金額に差があり、財布の中身にも影響してくるのではないだろうか。クレジットカードにおいても同様に考えると、学生にとってみれば、クレジットカードを財布に入れていなくても生活に支障を感じず、無くて困ることもない。それは、第3章 図 3-12「クレジットカードを持ちたいと思わない理由」の一つとしても挙がっている項目である。第3章 図 3-2「利用頻度の割合」から見ても、クレジットカードを会計時に出すケースは少ないので、結果、カードを持つ必要性を感じないのである。

表 4-2 財布の中身がいくらになると不安か

	県大生	
	男	女
100円以上500円未満	2	6
500円以上1000円未満	9	5
1000円以上3000円未満	2	7
3000円以上5000円未満	5	2
8000円以上1万円未満	0	0
1万円以上2万円未満	0	0

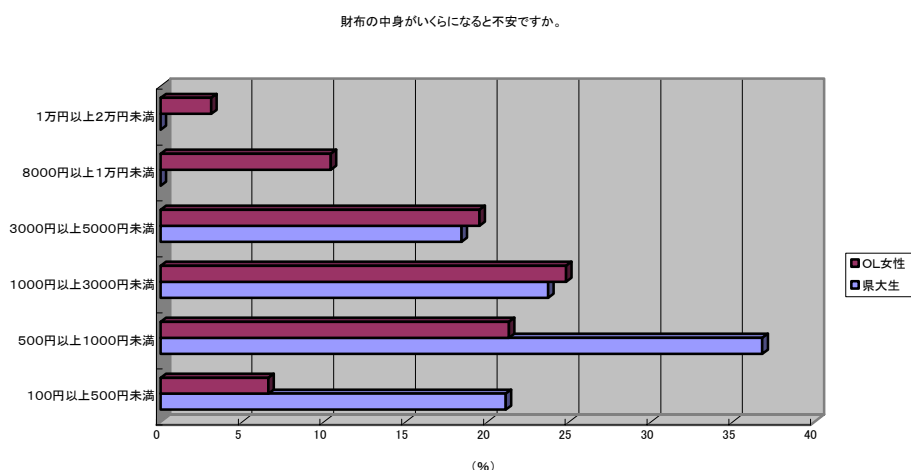


図 4-2 財布の中身がいくらになると不安か

4-1.4) 大金と思う金額

「自分にとって大金とはいくら以上のことですか」という質問項目に対する回答結果を表 4-3 に示す。また、図で表したのが、図 4-3 である。

OL 女性は、「10 万円以上」「3 万円以上」を大金だと思っている人がそれぞれ 20% を超えた。県大生は、1 万円台から 5 万円台を大金だと思っている人が多く、OL 女性に比べるとやや大金と考える額が小さい。OL 女性は 50 万円以上の回答も見られたが、県大生においては 50 万円以上の回答はなかった。

表 4-3 大金とはいくら以上のことか

	県大生	
	男	女
5000円以上	0	2
1万円以上	3	5
3万円以上	6	6
5万円以上	5	5
10万円以上	4	2
50万円以上	0	0
100万円以上	0	0
1000万円以上	0	0

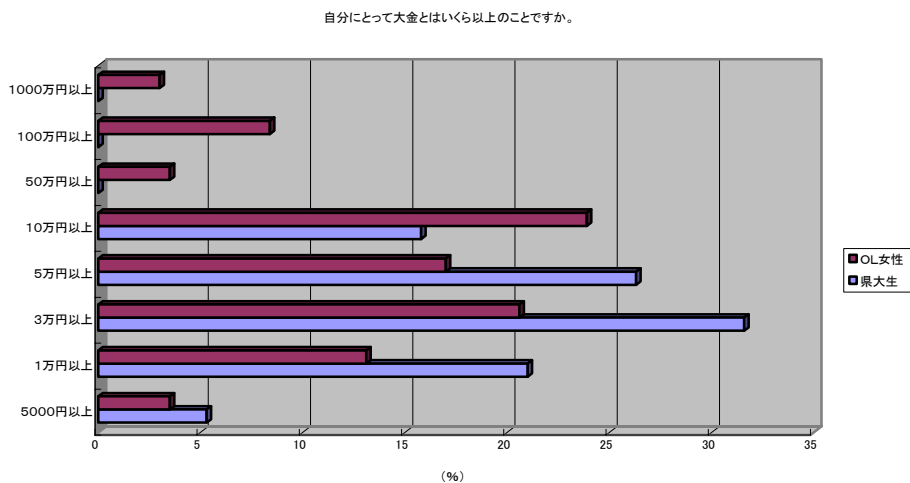


図 4-3 大金とはいくら以上のことか

4-1.5) まとめ

金銭感覚についてのアンケート結果から、県大生は、財布の中身をしっかり把握し、たとえ財布の中にお札が入っていないとしても不安に思うこともなく、10万円を超えると誰もが「大金である」と考える。大学生にとって、限られた収入の中でやりくりするには、大きな買い物をしたとしても多くても10万円までであり、日頃使う生活費とちょっとした娯楽費で収入は満たされてしまうのである。第3章 図3-12「クレジットカードを持ちたいと思わない理由」の中で、「使いすぎる危険がある」という回答が最も多かったように、何でも買ってしまうクレジットカードはその後の支払い能力に影響してくるため、カードをあまり使用しないことから、カードを使う必要性を感じないのではないかと考えられる。

第2節 県大生の生活実態

4-2.1) 調査目的

静岡県立大学学生委員会が平成16年12月に行った、『平成16年度「学生生活実態調査」速報値』[9]を参考に、県大生の生活実態から、クレジットカード利用の割合が低い原因を探る。なお、この調査結果から院生を除く学部生のみを回答結果を参考とする。また、以下の本論文の研究に関する質問項目のみを抜粋する。

- (1) 住宅の種別
- (2) 1ヶ月の平均生活費
- (3) どのように生活費を得ているか
- (4) 1ヶ月の家賃
- (5) 月平均のアルバイト収入
- (6) アルバイトをする目的
- (7) 大学入学後（他大学在籍時も含む）海外渡航の経験があるか
- (8) 海外渡航の目的

4-2.2) 住宅の種別

「住居の種別がどれに当てはまるのか」という質問項目の調査結果を表4-4に示し、図で表したのが図4-4である。県大生の約6割の人が、アパートやマンションでの自宅外生であり、残りの4割が自宅生であった。県大生は一人暮らしの学生の方が多いことから、生活の大半を自分自身で行っており、お金の管理も重要になってくる。自宅生と違って家

族にあまり依存できない一人暮らしの生活が、クレジットカードの利用とどう関わってくるのだろうか。以下に更なる研究を続ける。

表 4-4 住宅の種別 (文献 [9] より作成)

自宅	587	35.7%
アパート・マンション	1035	62.9%
その他	24	1.5%
計	1646	

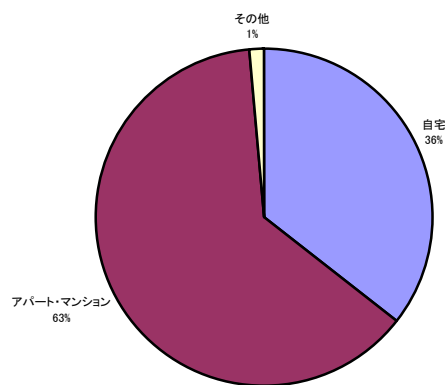


図 4-4 住宅の種別 (文献 [9] より作成)

4-2.3) 1ヶ月の平均生活費

次に、「自宅外生の1ヶ月の平均生活費(下宿代を含み授業料を除く)」の調査結果を表4-5aに示し、図で表したのが図4-5aである。そして、「どのように生活費を得ているか」という質問項目の調査結果を表4-5bに示し、図で表したのが図4-5bである。約半分の学生が7万円から10万円を生活費に費やしており、約4割が仕送りとバイト代で生活費を得ていることがわかった。また、2割の学生が生活費を仕送りのみでやりくりしており、本業が学生ということもあり、あまりバイトできる状況ではなく、限られた収入のみで生活している人も少なくないようだ。また、第3章 図3-12「クレジットカードを持ちたいと思わない理由」で「債務負担の増大」や「貯蓄の低下」を心配するといった回答が得られたように、毎月決められた額の収入で生活を余儀なくされる学生にとって、クレジットカードの利用は、商品を手に入れてからのその後の支払い能力に不安が生じてくるのであ

ろう。その場では、現金を必要としないで物が手に入ったとしても、後からくる請求額が生活費に影響を与えるのである。

表 4-5a 1ヶ月の平均生活費（文献 [9] より作成）

5万円未満	69	6.5%
5万円以上7万円未満	169	15.9%
7万円以上10万円未満	565	53.2%
10万円以上	254	23.9%
未記入	5	0.5%
計	1062	

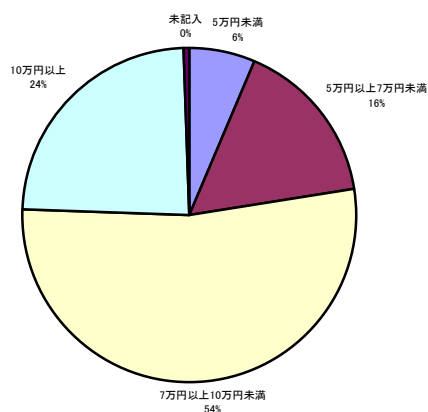


図 4-5a 1ヶ月の平均生活費（文献 [9] より作成）

表 4-5b どのようにして生活費を得ているか（文献 [9] より作成）

仕送りのみ	234	22%
奨学金のみ	23	2.2%
バイト代のみ	27	2.5%
仕送りと奨学金	81	7.6%
仕送りとバイト代	426	40.1%
奨学金とバイト代	71	6.7%
仕送り、奨学金、バイト代	184	17.3%
その他	16	1.5%
計	1062	

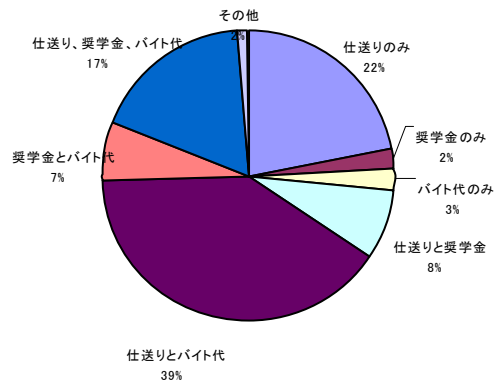


図 4-5b どのようにして生活費を得ているか（文献 [9] より作成）

4-2.4) 1ヶ月の家賃

「1ヶ月の家賃はいくらくらいか」という質問項目の調査結果を表 4-6 に示し、図で表したのが図 4-6 である。毎月の支出項目の一つが家賃。一定額の支出でありながら、生活費の約半分の割合を占めている。県大生においては、約 7 割の学生が 4 万円から 5 万円台の家賃であることがわかった。

そこで、図 4-5a で生活費を 10 万円、図 4-6 で家賃を 5 万円と考え、10 万円から 5 万円を引いて残りの 5 万円を自由に使えるお金だとする。また、社会人においては、日経 BP 社のライフスタイル アンケート「あなたのお小遣い事情 2005 年 3 月 2 日」[10]に、ビジネスパーソンの 1 ヶ月のお小遣い（自由に使えるお金）が 4 万 5570 円と述べられている。収入は大きく異なっても、自由に使えるお金は学生と社会人とではほぼ同じであることがわかった。その結果、学生と社会人におけるクレジットカードの利用の違いは、ライフスタイルからは見られないと考えることができる。

表 4-6 1ヶ月の家賃（文献 [9] より作成）

1万円台	10	0.9%
2万円台	15	1.4%
3万円台	153	14.4%
4万円台	402	37.9%
5万円台	365	34.4%
6万円台	81	7.6%
7万円以上	22	2.1%
未記入	14	1.3%
計	1062	

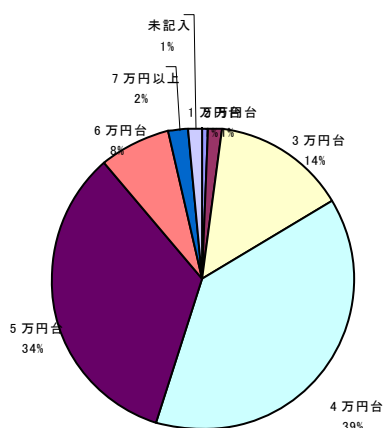


図 4-6 1ヶ月の家賃（文献 [9] より作成）

4-2.5) アルバイト収入とアルバイトをする目的

「月平均のアルバイト収入」の調査結果を表 4-7a に示し、図で表したのが図 4-7a である。また、「アルバイトをする目的は何か（複数回答可）」という質問項目の調査結果を表 4-7b に示し、図で表したのが図 4-7b である。アルバイト収入においては、2~4 万円未満、4~6 万円未満がそれぞれ約 3 割を占めていた。10 万円以上という回答も見られるが、多くの学生のアルバイト収入は 10 万円未満であった。また、アルバイトをする目的は、最も多かったのが「娯楽嗜好費」であり、約 4 割を占めており、続いて「生活費、学費」が約 2 割、「貯蓄」、「社会勉強」がそれぞれ約 1.5 割という結果であった。やはり娯楽費に費やすといった回答が多いが、その中で、生活費や学費に充てたり、貯蓄したりと用途は様々であるようだ。学生だからといって、アルバイトの収入がすべて娯楽費に充てられるわけ

ではないのである。

表 4-7a 月平均のアルバイト収入（文献 [9] より作成）

2万円未満	190	15.1%
2～4万円未満	401	31.8%
4～6万円未満	373	29.6%
6～8万円未満	188	14.9%
8～10万円未満	73	5.8%
10万円以上	30	2.4%
未記入	6	0.5%
計	1261	

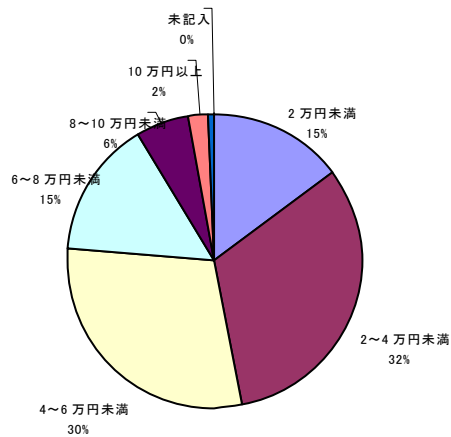


図 4-7a 月平均のアルバイト収入（文献 [9] より作成）

表 4-7b アルバイトをする目的（文献 [9] より作成）

娯楽嗜好費	1061	36.6%
生活費、学費	618	21.3%
貯蓄	442	15.3%
社会勉強	413	14.3%
課外活動費	126	4.4%
その他	236	8.1%
計	2896	

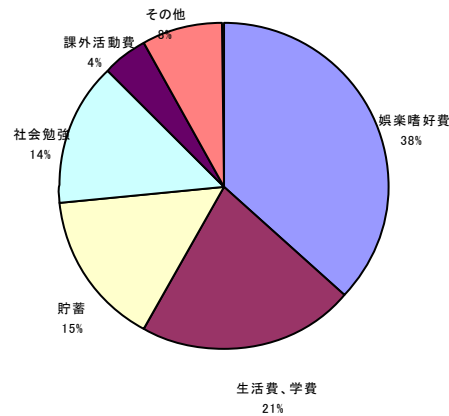


図 4-7b アルバイトをする目的（文献 [9] より作成）

4-2.6) 海外渡航の経験とその目的

「大学入学後（他大学在籍時も含む）海外渡航の経験があるか」という質問項目の調査結果を表 4-8a に示し、図で表したのが図 4-8a である。また、「渡航の目的は何か(複数回答可)」という質問項目の調査結果を表 4-8b に示し、図で表したのが図 4-8b である。第 3 章 図 3-5 「クレジットカードを作ったきっかけ」で、「海外旅行に行くため」という回答があったように、学生全体の約 3 割の学生が海外渡航の経験があり、国際関係学部においては、約半分の学生が海外渡航の経験があると回答している。海外では、現金ではなく、保険や保証がしっかりしているクレジットカードが便利であり、海外渡航のためにクレジットカードを作る人も少なくないということがわかった。

表 4-8a 海外渡航の経験（文献 [9] より作成）

	ある	ない
薬学部	68	401
食品栄養学部	52	159
国際関係学部	259	223
経営情報学部	38	221
看護学部	37	141
計	454	1145

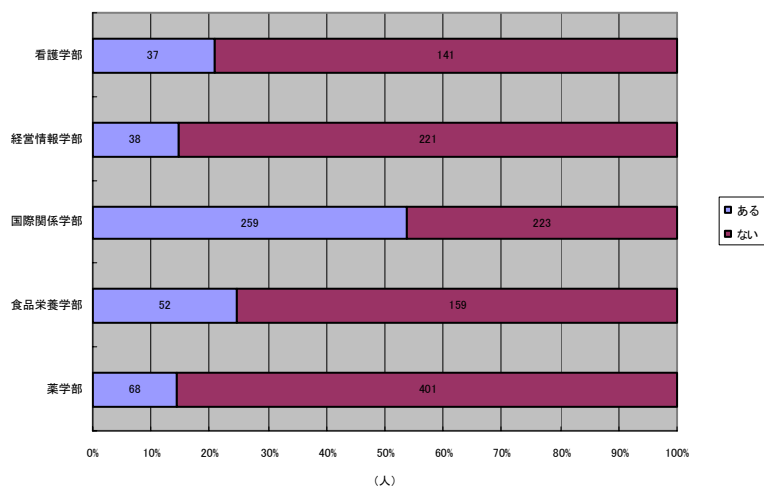


図 4-8a 海外渡航の経験 (文献 [9] より作成)

表 4-8b 海外渡航の目的 (文献 [9] より作成)

観光	362
語学留学	141
留学	40
研究	8
学会参加	0
その他	26
計	577

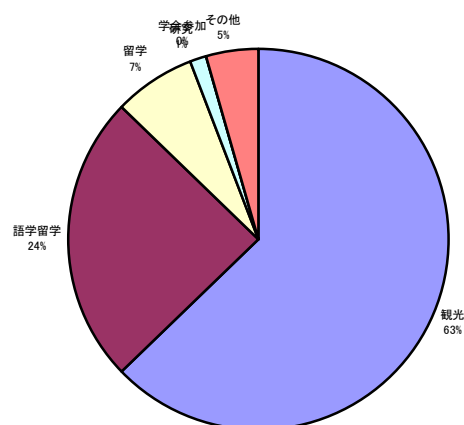


図 4-8b 海外渡航の目的 (文献 [9] より作成)

4-2.7) まとめ

4-2.5) で述べたように、1ヶ月の平均お小遣いが、学生と社会人が同じであると考えると、その使い道はそれぞれであり、生活スタイルによる環境の違いはないと考えられる。よって、クレジットカードの利用の違いとの関連性はないといえる。しかし、自分で稼いだお金（アルバイト代）で生計を立てている学生もわずかにいるが、多くの学生は、それに加え、仕送りや奨学金で生活をしている。生活するにあたって、まだ頼る立場である学生において、クレジットカードが「便利」というより、不安材料の一つとして考えられ、この調査の結果、クレジットカードの利用の違いは、学生と社会人のクレジットカードに対する考え方の違いからくるものであるということがわかった

第5章 まとめ

1960年に始まり、約45年間、年々右肩上がり大きく成長を遂げているクレジット産業であるが、本研究において、県大生のクレジットカードに対する意識はまだ低く、クレジットカード所持率は全体の約42%であり、男子学生においては、わずか9.7%であった(第3章 図3-1)。第1章 図1-4より、平成5年から平成15年のわずか10年間で、クレジットカード発行枚数・クレジットカード信用供与額ともに増加し、国民一人当たり約2枚のクレジットカードを所有している計算になるが、本論文の調査では、県大生のクレジットカードの利用度はまだまだ低いという結果が得られた。また、クレジットカードを所有しているにも関わらず、クレジットカードの機能を活用していない学生が多く、利用額も多くの人が1万円に留まっていた。便利さの具合も、社会人は利用すればするほどクレジットカードの便利さも高まってくる(第3章 図3-10b)が、県大生においては、利用したからといって常に便利だと実感するわけではないようだ(第3章 図3-10a)。

そこで、なぜこのように県大生のクレジットカードに対する意識が低いのか、クレジットカードを持っていない学生の回答結果を見てみると、第3章 図3-11では、「クレジットカードを持ちたい」と考えている学生は、わずか38.2%であり、大半が「持ちたいとは思わない」という考えであった。また、その理由に注目してみると、第3章 図3-12より、最も多かった意見が「使いすぎる危険がある」という回答であり、続いて「クレジットカードを持っていなくても生活に支障がない」という回答であった。クレジットカードの便利さや利点を理解しつつ、その反対の不利な点に着目してしまい、うまく機能を使いこなせない心配があるようだ。

さらに調査を進め、他の視点から県大生のカード事情を考察してみた。まず、金銭感覚において、社会人の代表としてOL女性と比べたところ、「財布の中身を把握しているか」(第4章 図4-1)という質問に対しては、両者に違いは見られず、約9割の人が財布の中身をほぼ把握していた。しかし、「財布の中身がいくらになると不安か」(第4章 図4-2)という質問では、OL女性はお札が入っていないと不安を感じるようだが、県大生においては、お札がなくても普段の生活上、支障は感じられないようだ。これは、「クレジットカードを持っていなくても生活に支障を感じられない」という回答結果と同様に考えると、必要性を感じないのであれば、財布にクレジットカードや大金が入っていないと不安に思うこともないということである。また、「大金と思う額はいくらか」(第4章 図4-3)という質問では、OL女性の回答は「5000円以上」から始まり、「1000万円以上」まで幅広く意見が分かれていたが、県大生では、「10万円以上」に留まり、社会人に比べて、や

や大金と考える額が小さかった。そのことから考えると、「クレジットカードを持ちたいと思わない理由」の中で、「使いすぎる危険がある」という回答が最も多かったように、現金の持ち合わせがなくても、欲しいものを手に入れることができるクレジットカードで大金を使い込んでしまったら、その後の支払い能力に影響することを見据え、カードを使う必要性を感じないのだと考えられる。

次に、県大生の生活実態から分析を試みたところ、自宅外生の多い県大生にとって、毎月、限られた収入で生活を余儀なくされる学生生活は、『カードの利用による「債務負担の増大」や「貯蓄の低下」(第3章 図3-12)』に影響してくるため、カードの利用率が少ないのであろう。

本論文の研究調査でわかった、学生と社会人のクレジットカードの利用の違いは、クレジットカードに対する考え方の違いからくるものであるという結果となった。

しかし、現在カードを持たず、今後もカードを持ちたいとは思わないと回答した学生であっても、第3章 図3-13より、緊急時に対応してくれる、あるいは割引やポイントといったサービスに魅力を感じた場合、「利用してみたい」と感じるのである。また、現在カードを持っていないが、今後持ちたいあるいは持つ予定のある学生で、持ちたい理由を聞いてみたところ(第3章 図3-14)、クレジットカードの利便性を理解した上で、現金払いにはない様々なサービスや特典、また最も多かった回答として現金を持ち歩かなくてもよい点などが挙げられており、現在は県大生のカードの利用率はまだまだ低いですが、今後はいっとその割合は増大するであろうと考えられる。

謝辞

本論文の作成にあたり、「学生生活実態調査」のデータ提供にご協力を頂いた静岡県立大学学生委員会の方、また、アンケート調査にご協力を頂いた、県大生のみなさま、経営情報学部の先生方、その他多くの方々に深く感謝いたします。

そして、ご多忙の中、丁寧な指導とたくさんの助言をしてくださった小出義夫先生に深く感謝いたします。

参考文献

- [1] 日本クレジットカード協会(JCCA) HP 2005年10月17日閲覧
<http://www.jcca-office.gr.jp/>
- [2] 社団法人全国信販協会 HP 2005年10月17日閲覧
<http://www.shinpanyo.or.jp/>
- [3] GP ネット HP 2005年10月24日閲覧
<http://www.gpnet.ne.jp/>
- [4] クレジットカード・ジャパン(CJ) HP 2005年10月24日閲覧
<http://www.creditcard-japan.net/knowledge/history.htm>
- [5] よくわかるクレジット&カード業界
増淵正明著 日本実業出版社発行 2004年2月1日発行
- [6] クレジットカード大百科辞典 HP 2005年10月24日閲覧
<http://dm17.cside.jp/~s17562-1/credit/archives/2005/09/>
- [7] 日本クレジット産業協会 2005年10月17日閲覧
<http://www.jccia.or.jp/>
- [8] サンケイリビング新聞社 HP 2005年10月20日閲覧
<http://www.citywave.com/tokyo/olken/050603/index.html>
- [9] 静岡県立大学学生委員会によるアンケート調査
『平成16年度「学生生活実態調査」速報値』 2004年12月実施
- [10] 日経BP社 ライフスタイル アンケート
「あなたのお小遣い事情 2005年3月2日」
2005年11月9日閲覧
http://nikkeibp.jp/style/life/enquete/050302_okozukai/

付 録

- 1 . クレジットカードに関するアンケート調査用紙 5 2
- 2 . 金銭感覚に関するアンケート用紙 5 7

卒業研究として、クレジットカードに関する調査を行っています。

アンケートのご協力お願い致します。

なお、このアンケートでいただいた情報は、卒業研究のみ使用させていただきます。

実施者； 静岡県立大学 経営情報学部 4年 中小路 恵

アンケート用紙

該当する項目の番号に 印をお付けください。

職業 (1. 会社員、公務員 2. 派遣、パート、アルバイト 3. 学生
4. 自営 5. その他())

性別 (1. 女 2. 男)

年齢 (1. 20代 2. 30代 3. 40代 5. 50代 6. 60代)

次の質問にお答えください。該当する項目の()欄に 印をお付けください。

Q1：あなたはクレジットカードを持っていますか。

() 持っている Q2へ
() 持っていない Q10へ

ここからは、クレジットカードを持っていると答えた方のみお答えください。

Q2：クレジットカードを何枚持っていますか。

() 1枚 () 2枚 () 3枚 () 4枚以上

Q3：あなたが持っているクレジットカードの種類は何ですか。

() 三井住友VISAカード () Nicosカード
() JCBカード () ライフカード
() UCカード () オリコカード
() UFJカード () ジャックスカード
() DCカード () アプラスカード
() CF(セントラルファイナンス)カード

() イオンカード () マイソニーカード () シナジーカード
() セゾンカード () ホンダcカード () 出光カードまいどプラス

ここからは、クレジットカードを持っていないと答えた方のみお答えください。

Q10：クレジットカードを持ちたいとお考えですか。

- 持ちたい、または今後持つ予定だ **Q11 へ**
- 持ちたいとは思わない **Q12 へ**

Q9 でクレジットカードを持ちたい、または今後持つ予定であると答えた方に質問です。

Q11：持ちたい、または持つ予定である理由は何ですか。

(該当する項目 3 つ以内で選択してください)

- 多額の現金を持ち歩かなくてもよい
- ポイントサービスやお得な情報を得ることができる
- 現金払いの手間が省ける
- 海外に行く予定がある
- 身分証明書として使える
- 年会費が無料なカードなら 1 枚くらい持っていたい
- その他 []

Q9 でクレジットカードを持ちたくないと答えた方に質問です。

Q12-1：持ちたくない理由は何ですか。

(該当する項目 3 つ以内で選択してください)

- ついつい使いすぎる危険がある
- 債務負担が増大してしまう
- 支払手数料がかかる
- クレジットカードを作るのが面倒だから
- 貯蓄の低下が心配
- 盗難や不正行為などの問題がある
- クレジットカードを持っていなくても生活に支障はない
- その他 []

Q12-2：どのようなカードやサービスならクレジットカードを利用してみたいと思いますか。
(該当する項目3つ以内で選択してください)

- () ネット上で不正行為された際の代金の補填
- () ポイントが貯まりやすい
- () 紛失時に緊急に対応してくれる
- () カード提示や利用でショッピングや飲食の割引や特典がある
- () 購入した商品破損時の保険が付帯している
- () 複数の会社(種類)のポイントが1つにまとめられる
- () 海外旅行保険が付帯している
- () 国内旅行保険が付帯している
- () 観劇、コンサート等のチケットが優先的に予約できたり、割引がある
- () ホテルに宿泊の際に部屋のグレードがあがる
- () 1枚のカードで、複数の会社(種類)として使える
- () リボルビングやキャッシングの利率が低い
- () ポイントがマイルに換えられる
- () 自分が決めた金額で自由返済できる
- () ETCの支払いができる
- () 携帯電話の機能でクレジットカード代わりになり、支払いができる
- () カードに自分のお気に入りの写真やイラストが印刷してもらえる
- () その他 []

ご協力ありがとうございました。

クレジットカードに対するアンケート調査

卒業論文として、クレジットカードに関する調査を行っています。

アンケートのご協力をお願いいたします。

なお、このアンケートでいただいた情報は、卒業論文でのみ使用させていただきます。

静岡県立大学 経営情報学部 小出ゼミ 中小路 恵

以下の質問にお答えください。

Q1：性別 (1.女 2.男)

Q2：あなたは財布にいくら入っているか把握していますか。

1. いつも把握している
2. 大体把握している
3. たまに把握している
4. 把握していない

Q3：財布の中身がいくらになると不安ですか。

1. 1000円以上 5000円未満
2. 5000円以上 10000円未満
3. 10000円以上 30000円未満
4. 30000円以上 50000円未満
5. 80000円以上 1万円未満
6. 1万円以上 2万円未満

Q4：自分にとって大金とはいくら以上のことですか。

1. 50000円以上
2. 1万円以上
3. 3万円以上
4. 5万円以上
5. 10万円以上
6. 50万円以上
7. 100万円以上
8. 1000万円以上

ご協力ありがとうございました。